

別添1

厚生労働行政推進調査事業費補助金
慢性の痛み政策研究事業

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

平成31年度～令和3年度 総合研究報告書

研究代表者 矢吹 省司

令和4年5月

目 次

I. 総合研究報告

慢性疼痛診療システムの均てん化と

痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究…………… 1

矢吹 省司

II. 研究成果の刊行に関する一覧表

1. 書籍…………… 8

2. 雑誌…………… 17

令和3年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
総合研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究代表者 矢吹 省司 福島県立医科大学医学部疼痛医学講座 教授

研究要旨

慢性疼痛診療システムの均てん化のためには痛みセンターの拡充が重要であり、痛みセンターを中心に研究データを積み上げ、解析することが必要である。そのため、本研究班では、1) 集学的痛みセンターの構築（新たな痛みセンターの立ち上げ、今まで出来ている痛みセンターの成績の解析と充実化、そして新たな前向き研究）、2) 慢性疼痛患者のデータベースの構築（登録システムの開発と継続）、3) 最新の研究結果も取り入れた慢性疼痛診療におけるガイドラインの作成と有用性の検討、そして4) 国民への広報や医療者の教育、診療に役立つツールの開発を行う。さらに慢性疼痛診療モデル事業全体の成果と問題点を解析し、今後の方向性を示していく。3年間の成果は以下の如くである。

1. 集学的痛みセンターの構築分科会
1) 痛みセンターの条件の再検討を行い、その条件を示して申請を募った。令和元年度は23施設であったが、令和3年度では34施設を認定することができた（令和4年3月31日時点）。2) 慢性疼痛診療モデル事業の効果判定にも使用可能なツールの開発を始め、プロトタイプが出来上がり、このツールを使用し、教育効果の判定が可能かどうか検討を進めた。3) 慢性疼痛患者と発達障害の関連を明らかにするための質問表（スクリーニングツール）を痛みセンターに配布し、データを収集した。これらのデータの解析し、発達障害スクリーニングツールで陽性となる慢性疼痛患者の頻度が明らかとなる。

2. 慢性疼痛患者のデータベースの構築分科会
データベースに入力する内容、管理する委託会社を決定し、入力を開始した。登録症例数はまだ300例程度である。きめ細かく必要性を説明し、登録症例を増やして充実したデータベースにしていく。

3. 慢性疼痛診療ガイドラインの作成と有用性の検討分科会
ガイドライン2021が完成したため、その普及に努めた。今後はその有用性を明らかにする必要がある。

4. 国民への広報や医療者の教育、診療に役立つツールの開発分科会
ホームページの最新化を適宜行っている。教育コンテンツの作成や改訂に取り組んでいる。現状のツールの問題点が明らかになってきたため、その変更を今後行う。上記のように4つの分科会で研究を進めることができた。3年間の研究期間で、研究結果を出すことができた。

研究分担者

牛田享宏 愛知医科大学医学部教授
山下敏彦 札幌医科大学医学部教授
小澤浩司 東北医科薬科大学整形外科教授
伊達 久 仙台ペインクリニック院長
山口重樹 獨協医科大学医学部主任教授
大鳥精司 千葉大学大学院医学研究院教授
上園晶一 東京慈恵会医科大学主任教授
(~R2. 3. 31)
倉田二郎 東京慈恵会医科大学教授
(R2. 4. 1~)
井関雅子 順天堂大学医学部教授
加藤 実 日本大学医学部麻酔科学系准教授
今村佳樹 日本大学歯学部教授
松平 浩 東京大学医学部附属病院特任教授

小杉志都子 慶應義塾大学医学部専任講師
山岸暁美 慶應義塾大学医学部非常勤講師
(~R1. 12. 16)
北原雅樹 横浜市立大学医学部診療教授
木村慎二 新潟大学医歯学総合病院病院教授
川口善治 富山大学医学部整形外科教授
中村裕之 金沢大学医薬保健研究域教授
杉浦健之 名古屋市立大学大学院教授
青野修一 愛知医科大学医学部講師
丸山一男 三重大学大学院医学系研究科教授
福井 聖 滋賀医科大学医学部附属病院
病院教授
松田陽一 大阪大学大学院医学系研究科講師
中塚映政 なかつか整形外科リハビリクリニック院長

松原貴子 神戸学院大学教授
西田圭一郎 岡山大学大学院准教授
鈴木秀典 山口大学大学院助教
檜垣暢宏 愛媛大学医学部附属病院講師
川崎元敬 四国こどもとおとなの医療センター科長
細井昌子 九州大学病院心療内科診療准教授
門司 晃 佐賀大学医学部教授
藤野善久 産業医科大学産業生態科学研究所教授

(～R3.3.31)

池内昌彦 高知大学医学部教授
小幡英章 福島県立医科大学附属病院教授
二階堂琢也 福島県立医科大学医学部准教授

A. 研究目的

慢性疼痛診療システムの均てん化のためには痛みセンターの拡充が重要であり、痛みセンターを中心に研究データを積み上げ、解析することが必要である。そのため、本研究班では、1) 集学的痛みセンターの構築(新たな痛みセンターの立ち上げ、今まで出来ている痛みセンターの成績の解析と充実化、そして新たな前向き研究)、2) 慢性疼痛患者のデータベースの構築(登録システムの開発と継続)、3) 最新の研究結果も取り入れた慢性疼痛診療におけるガイドラインの作成と有用性の検討、そして4) 国民への広報や医療者の教育、診療に役立つツールの開発を行う。さらに慢性疼痛診療モデル事業全体の成果と問題点を解析し、今後の方向性を示していく。

B. 研究方法

4つの分科会を作ってそれぞれの課題に取り組んだ。

1. 集学的痛みセンターの構築分科会

新たな痛みセンターの立ち上げと既存の痛みセンターの現状とその成績の解析を行う。中国の痛みセンターを見学する。慢性疼痛患者と発達障害に関する前向き研究を行う。慢性疼痛診療モデル事業の効果と問題点を明らかにしていく。

2. 慢性疼痛患者のデータベースの構築分科会

データベースの構築と登録を進める。

3. 慢性疼痛診療ガイドラインの作成と有用性の検討分科会

最新のデータを取り入れたガイドラインの作成を行う。完成後は有用性の検討を行う。

4. 国民への広報や医療者の教育、診療に役立つツールの開発分科会

慢性疼痛総合対策の普及・啓発(総合的な痛み情報ポータルサイトのホームページ「WWW.itami-net.or.jp」)と地域の各痛みセンターの診療(検査、治療)の状況をアップデートする。患者管理用ツール、医療者・患者の教育ツールや診断・治療に役立つツールの開発を行う。

(倫理面への配慮)

慢性疼痛患者と発達障害に関する前向き研究は、倫理委員会の承認を得ている。慢性疼痛診療モデル事業の効果判定にも使用可能なツールの開発に関してはツールができてから倫理委員会に提出するように指導されている。

C. 研究結果

1. 集学的痛みセンターの構築分科会

1) 痛みセンターの条件の再検討を行い、その条件を示して申請を募った。令和元年度は23施設であったが、令和3年度までに34施設を認定することができた(令和4年3月31日時点)。

2) 慢性疼痛診療モデル事業の教育効果判定にも使用可能なツールの開発を始め、プロトタイプが出来上がり、このツールを使用し、教育効果の判定が可能かどうか検討を進めた。

3) 慢性疼痛患者と発達障害の関連を明らかにするための質問表(スクリーニングツール)を痛みセンターに配布し、データを収集した。これらのデータを解析した結果、発達障害スクリーニングツールで陽性となる慢性疼痛患者の頻度が明らかとなり、論文で公表する準備を進めている。

2. 慢性疼痛患者のデータベースの構築分科会

データベースに入力する内容、管理する委託会社を決定し、入力を開始した。登録症例数はまだ300例程度である。きめ細かく必要性を説明し、登録症例を増やして充実したデータベースにしていく。

3. 慢性疼痛診療ガイドラインの作成と有用性の検討分科会

ガイドライン2021が完成したため、その普及に努めた。今後はその有用性を明らかにする必要がある。

4. 国民への広報や医療者の教育、診療に役立つツールの開発分科会

ホームページの最新化を適宜行っている。教育コンテンツの作成や改訂に取り組んでいる。現状のツールの問題点が明らかになってきたため、その変更を今後行う。

D. 考察

1. 集学的痛みセンターの構築分科会

1) 痛みセンターの条件を満たす施設が、23施設から34施設まで増え、それらを認定することができた。しかし、地域の偏りがあり、各県全てに一つ以上の痛みセンターを設置するという目標には達しなかった。

2) 慢性疼痛診療モデル事業の教育効果判定などに使用可能なツールはプロトタイプが完成した。今後はこれを使用して、ツールの有用性を評価するとともに、教育や連携を効果的に行うためにはどうすればよいのかを検討していきたい。

3) 慢性疼痛患者と発達障害の関連を明らかにするための質問表のデータが集まり、解析を行った。慢性疼痛患者と発達障害の関係の一部が明らかになる可能性がある。ただし、今回の研究で使用した質問表は、発達障害スクリーニングツールであり、発達障害の診断が行えているわけではないため、その解釈には注意が必要である。この点を踏まえて、慎重に論文を作成していく。

2. 慢性疼痛患者のデータベースの構築分科会

登録症例数を伸ばすために、今後きめ細かく必要性を説明していきたい。登録症例を増やして充実したデータベースにしていく必要がある。

3. 慢性疼痛診療ガイドラインの作成と有用性の検討分科会

ガイドライン2021が出来上がった。今後はその有用性を評価する予定である。評価のために、本研究班で作成した上記1の2)で述べたプロトタイプのツールを使用していきたい。

4. 国民への広報や医療者の教育、診療に役立つツールの開発分科会

慢性痛の問題が国民に十分理解されている状況にはない。医療従事者に対してもまだ教育が必要だと思われる。さらなる広報・教育に努めていく必要がある。

E. 結論

3年間の研究期間において、4つの分科会で研究を進めることができた。それぞれの分科会

科会で成果を上げることができた。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Shoji Yabuki, Kozue Takatsuki, Koji Otani, Takuya Nikaido, Kazuyuki Watanabe, Kinshi Kato, Hiroshi Kobayashi, Junichi Handa, Shin-ichi Konno: Headache in patients with cervical spondylotic myelopathy. J Pain Res & Management. Sep 28;2020:8856088.
- 2) 岩崎稔、会田記章、北原エリ子、藤原俊之、村上安壽子、本谷亮、青木俊太郎、笠原諭、高橋直人、松平浩、井関雅子、丹羽真一、矢吹省司：行動科学的アプローチ統合リハビリテーションツール「E-ABA」の紹介。ペインクリニック 41(9)：1181-1192, 2020
- 3) 二階堂琢也、矢吹省司：脊椎・脊髄疾患治療の今 脊椎外科医から理学療法士に期待すること。PT ジャーナル 54(7) (July) :746-752, 2020
- 4) 本幸枝、谷本真実、岩崎稔、笠原諭、高橋直人、松平浩、丹羽真一、矢吹省司：慢性疼痛に対する動機づけ面接—看護師の立場から—。ペインクリニック 41(9)：1171-1180, 2020
- 5) Kinshi Kato, Masahiko Sumitani, Miho Sekiguchi, Takuya Nikaido, Shoji Yabuki, Shin-Ichi Konno: Development of a severity discrimination scale based on physical quality of life for patients with chronic pain. J Orthop Sci 26(6):1124-1129, 2021
- 6) Watanabe K, Otani K, Tominaga R, Kokubun Y, Sekiguchi M, Fukuma S, Kamitani T, Nikaido T, Kato K, Kobayashi H, Yabuki S, Kikuchi SI,

- Konno SI: Sagittal imbalance and symptoms of depression in adults: Locomotive Syndrome and Health Outcomes in the Aizu Cohort Study (LOHAS). *Eur Spine J* 30(9):2450-2456, 2021
- 7) Kato K, Otoshi K, Yabuki S, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kobayashi H, Handa J, Konno S: Abdominal oblique muscle injury at its junction with the thoracolumbar fascia in a high school baseball player presenting with unilateral low back pain. *Fukushima J Medical Science* 67(1): 49-52, 2021
- 8) 矢吹省司：難治性慢性疼痛患者のリハビリテーション診療. *Jpn J Rehabil Med* 58(2): 186-191, 2021
- 9) 矢吹省司：慢性疼痛の治療戦略. *Jpn J Rehabil Med* 58(11): 1250-1255, 2021
- 10) 吉田勝浩、矢吹省司：膝関節疾患に対する運動療法—最新の知見—. *整・災外* 64(4): 413-417, 2021
- 11) 高橋勝、大井直往、大内一夫、佐藤真理、猪狩貴弘、矢吹省司：鏡視肩板修復術後患者に対するMirror therapyの効果. *福島医学雑誌* 71(1): 11-18, 2021
- 12) Kazuki Kobayashi, Kazuyuki Watanabe, Kinshi Kato, Michiyuki Hakozaki, Jun-ichi Handa, Hiroshi Kobayashi, Takuya Nikaido, Koji Otani, Shoji Yabuki, Shin-ichi Konno: Acute cauda equina syndrome due to lumbar spinal stenosis caused by prolonged supine position during cardiac catheterization: a case report. *International Journal of Case Reports (IJCR)* 5: 209, 2021
- 13) 矢吹省司：新ガイドラインの意義. *ペインクリニック* 42(8): 937-939, 2021
- 14) 二瓶健司、高橋直人、笠原諭、荒瀬洋子、森山由紀、佐藤恵美、桐生亜紀、岩崎稔、春山祐樹、矢吹省司：星総合病院慢性疼痛センターにおける就学的痛み治療—多職種連携における認知行動療法の意義—. *慢性疼痛* 40(1): 22-28, 2021
- 15) Kazuyuki Watanabe, Koji Otani, Takuya Nikaido, Kinshi Kato, Hiroshi Kobayashi, Junichi Handa, Shoji Yabuki, Shin-ichi Kikuchi, Shin-ichi Konno: Usefulness of the Brief Scale for psychiatric problems in orthopaedic patients (BS-POP) for predicting poor outcome in patients undergoing lumbar decompression surgery. *Pain Research and management* 2021, 2589865
- 16) Kato K, Yabuki S, Otani K, Nikaido T, Otoshi KI, Watanabe K, Kikuchi SI, Konno SI: Ossification of the ligamentum flavum in the thoracic spine mimicking sciatica in a young baseball pitcher: a case report. *Fukushima J Med Sci* 67(1): 33-37, 2021.
- 17) 本幸枝、高橋直人、谷元真実、恩田 啓、笠原諭、矢吹省司：慢性疼痛治療における看護師の動機づけ面接アプローチ：面談プロセスを意識したチームでの取り組み. *日本運動器疼痛学会誌* 13: 86-93, 2021
- 18) Satoshi Kasahara, Naoto Takahashi, Ko Matsudaira, Hiroyuki Oka, Kozue Takatsuki, Shoji Yabuki: Psychometric properties of the Multidimensional Pain Inventory:

Japanese language version (MPI-J).

Pain Physician 25: E105-112, 2022

- 19) 矢吹省司：「慢性疼痛診療ガイドライン」について. ペインクリニック 43(1)： 43-47, 2022

2. 学会発表

- 1) 高橋直人、高槻梢、笠原諭、矢吹省司：シンポジウム：運動器慢性痛に対する集学的痛み治療 -現状と問題点-. 第 93 回日本整形外科学会学術総会-オンライン学術総会-, WEB 開催, 2020. 6. 11-8. 31
- 2) 高橋直人、矢吹省司：シンポジウム：入院ペインマネジメントプログラムを用いた多職種連携集学的痛み治療. 第 35 回日本整形外科学会基礎学術集会, 東京 (Web 開催) 2020 年 10 月 15-16 日
- 3) 高橋直人、高槻梢、笠原諭、矢吹省司：就労の有無による運動器慢性疼痛患者の相違点. 第 28 回日本腰痛学会, WEB 開催, 2020. 10. 30-11. 29
- 4) 高橋直人、高槻梢、笠原諭、矢吹省司：運動器慢性痛患者に対する集学的痛み治療後の QOL 向上に影響する要因の探索的研究. 第 13 回日本運動器疼痛学会, 新潟 (Web 開催), 2020. 11. 28-29. 日本運動器疼痛学会誌 2020 Vol. 12, No. 4, S59
- 5) 本幸枝、高橋直人、谷本真実、恩田啓、笠原諭、矢吹省司：シンポジウム：「慢性疼痛診療における心とからだケアの融合」慢性疼痛治療における看護師による心へのアプローチ. 第 13 回日本運動器疼痛学会, 新潟 (Web 開催) 2020. 11. 28-29. 日本運動器疼痛学会誌 2020 Vol. 12, No. 4, S17
- 6) 二瓶健司、高橋直人、春山祐樹、斉藤力、岩崎稔、谷津田尊寛、金澤美香、矢吹省司：身体活動量と栄養摂取量が低下した慢性疼痛患者に対するペインマネジメントプログラム. 第 13 回日本運動器疼痛学会, 新潟 (Web 開催), 2020. 11. 28-29. 日本運動器疼痛学会誌 2020 Vol. 12, No. 4, S93
- 7) 春山祐樹、高橋直人、二瓶健司、斉藤力、岩崎稔、谷津田尊寛、金澤美香、矢吹省司：筋量が低下した慢性疼痛患者における栄養管理下での運動プログラムについて. 第 13 回日本運動器疼痛学会, 新潟 (Web 開催), 2020. 11. 28-29. 日本運動器疼痛学会誌 2020 Vol. 12, No. 4, S93
- 8) 福地朋子、高橋直人、恩田啓、笠原諭、矢吹省司：シンポジウム「集学的治療と運動療法」慢性痛に対する集学的診療薬剤師の役割. 第 50 回日本慢性疼痛学会, Web 開催, 2020. 3. 19-20
- 9) 金澤美香：シンポジウム「集学的治療と運動療法」慢性痛に対する集学的診療栄養士の役割. 第 50 回日本慢性疼痛学会, Web 開催, 2020. 3. 19-20
- 10) 本幸枝、高橋直人、谷本真実、恩田啓、笠原諭、矢吹省司：シンポジウム「集学的治療と運動療法」慢性痛に対する集学的診療 看護師の役割. 第 50 回日本慢性疼痛学会, Web 開催, 2020. 3. 19-20
- 11) 高橋直人、高槻梢、笠原諭、矢吹省司：器質的異常の有無による運動器慢性痛に対する集学的入院プログラムの治療効果の相違. 第 42 回日本疼痛学会, WEB 開催, 2020. 12. 4-5
- 12) 笠原諭, 松平浩, 佐藤直子, 高橋香央里, 福田謙一, 丹羽真一：【最先端ミニレクチャー】慢性疼痛と ADHD.. 第 42 回日本疼痛学会 (招待講演) 2020 年 12 月 4 日
- 13) Naoto Takahashi, Kozue Takatsuki, Satoshi Kasahara, Shoji Yabuki:

- Multidisciplinary inpatient pain management program for patients with chronic musculoskeletal pain in Japan: a cohort study. IASP 2021 Virtual World Congress on pain, 09-18 June 2021
- 14) 高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司: 慢性疼痛センターにおける集学的痛み治療の効果: 入院を含む群と外来群との比較. 第29回日本腰痛学会, WEB開催, 2021.10.22-23
- 15) 二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤鉄志, 小林洋, 小林良浩, 紺野慎一: 難治性慢性腰痛に対するリエゾンアプローチ—多面的評価からみた慢性一次性筋骨格痛と慢性術後痛の比較—. 第29回日本腰痛学会, WEB開催, 2021.10.22-23
- 16) 二瓶健司, 高橋直人, 高槻梢, 本幸枝, 谷本真実, 福地朋子, 荒瀬洋子, 佐藤恵美, 森山由紀, 金澤美香, 谷津田尊寛, 松本大典, 春山祐樹, 岩崎稔, 船尾亜里香, 富永桂子, 恩田啓, 笠原諭, 松平浩, 矢吹省司: シンポジウム「集学的治療現状と課題/システム作りと運営・経営」星総合病院慢性疼痛センターでの集学的痛み診療の現状と課題 第14回日本運動器疼痛学会, WEB開催, 2021.11.20-12.5
- 17) 二瓶健司, 高橋直人, 矢吹省司: 疼痛による機能性側弯に対し3Dバックスキャナーでフォローした症例. 第14回日本運動器疼痛学会, WEB開催, 2021.11.20-12.5
- 18) 谷本真実, 本幸枝, 笠原諭, 荒瀬洋子, 矢吹省司: 慢性疼痛センターでの集学的教育入院型プログラムにおける Multidimensional Pain Inventory による分類別の治療効果について. 第14回日本運動器疼痛学会, WEB開催, 2021.11.20-12.5
- 19) 高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司: 身体活動が異なる慢性疼痛患者の治療効果の相違. 第14回日本運動器疼痛学会, WEB開催, 2021.11.20-12.5
- 20) 福地朋子, 高橋直人, 恩田啓, 笠原諭, 矢吹省司: 内服タイミングの変更により日中の活動量が増加し再就労に繋がった一例. 第14回日本運動器疼痛学会, WEB開催, 2021.11.20-12.5
- 21) 佐藤恵美, 荒瀬洋子, 笠原諭, 高橋直人, 矢吹省司: 家族からの批判により自己主張を回避し慢性疼痛を訴える高校生への心理療法の経験: 1例報告. 第14回日本運動器疼痛学会, WEB開催, 2021.11.20-12.5
- 22) 谷津田尊寛, 高橋直人, 二瓶健司, 春山祐樹, 松本大典, 本幸枝, 矢吹省司: 慢性疼痛センターで就労支援を行った慢性広範囲一次性疼痛の1例. 第14回日本運動器疼痛学会, WEB開催, 2021.11.20-12.5
- 23) 高橋直人, 高槻梢, 笠原諭, 矢吹省司: ICD-11 分類別でみた運動器慢性痛に対する集学的入院プログラムの治療効果. 第43回日本疼痛学会, WEB開催, 2021.12.10-11
- 24) 本幸枝, 谷本真実, 恩田啓, 笠原諭, 矢吹省司: シンポジウム「慢性疼痛治療における看護師の役割」チーム医療における看護師の役割. 第51回日本慢性疼痛学会, Web開催, 2022.2.25-26

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
矢吹省司	腰痛症	泉孝英	ガイドライン外来診療2019	日経メディカル開発	東京	2019	267-272
矢吹省司	腰痛・背部痛	伴信太郎、山本和利	内科学書 改訂第9版	中山書店	東京	2019	442-445
矢吹省司	四肢痛	伴信太郎、山本和利	内科学書 改訂第9版	中山書店	東京	2019	445-447
矢吹省司	腰痛症	泉孝英	ガイドライン外来診療2020	日経メディカル開発	東京	2020	274-280
牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬		牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬	慢性疼痛ケースカンファレンス 痛み にチームでアプロ	メジカルビュー社	東京	2020	
田口敏彦, 飯田宏樹, 牛田享宏		田口敏彦, 飯田宏樹, 牛田享宏	疼痛医学	医学書院	東京	2020	
山下敏彦	頸椎捻挫（外部性頸部症候群）	福井次矢, 高木誠, 小室一成	今日の治療指針. 私 はこう治療している	医学書院	東京	2019	1137-1138
山下敏彦	坐骨神経痛.	猿田享男, 北村惣一郎	1361専門家による 私の治療 2019-20 年度版	日本医事新報社	東京	2019	959-960
山下敏彦	痛みの基礎科学と臨床	井樋栄二, 吉川秀樹, 津村弘, 田中栄, 高木理彰	標準整形外科学	医学書院	東京	2020	82-87
山下敏彦	腰背部痛	永井良三	今日の診断指針	医学書院	東京	2020	290-293
山下敏彦	神経障害性疼痛	田口敏彦, 飯田宏樹, 牛田享宏	疼痛医学	医学書院	東京	2020	119-125
山下敏彦	脊髄損傷	小室一成	今日の治療指針	医学書院	東京	2021	53-54
山下敏彦	神経障害性疼痛	一般財団法人日本いたみ財団	いたみの教科書 「疼痛医学」ダイ ジェスト版	医学書院	東京	2021	42-47
表 圭一	末梢作動性オピオイドは, 神経障害性疼痛に対して, 中枢性の副作用を呈することなく自発性, 持続性疼痛を抑制する	新山幸俊	日めくり麻酔科エビデンスアップデート3	克誠堂出版	東京	2020	194-195
表 圭一	骨折後の適切な運動やリハビリは, CRPSの発症や症状悪化を抑制する	新山幸俊	日めくり麻酔科エビデンスアップデート3	克誠堂出版	東京	2020	196-197

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
表 圭一	脊髄刺激療法の内因性下行性抑制系の賦活により、慢性疼痛における自律神経系の乱れを回復させる	新山幸俊	日めくり麻酔科エビデンスアップデート3	克誠堂出版	東京	2020	198-199
表 圭一	神経障害性疼痛患者に対して、その罹患期間にかかわらず、プレガバリンは有効である	新山幸俊	日めくり麻酔科エビデンスアップデート3	克誠堂出版	東京	2020	200-201
表 圭一	椎間板性腰痛症は、椎間板症における炎症機序ではなく、神経障害性要因が大きく寄与している	新山幸俊	日めくり麻酔科エビデンスアップデート3	克誠堂出版	東京	2020	202-203
Ozawa H, Tanaka Y, Aizawa T, Kanno H, Kokubun S	Posterior Osteotomy and Reconstruction for Osteoporotic Vertebral Collapse	Chen, Po-quang; Lin, Rhoey-mo; Tsai, Keh-sung	Osteoporosis Of The Spine: Asian Perspectives.	World Scientific	Singapore	2021	582-590
伊達久	限られた職種で行う集学的アプローチ:①ペインクリニックの例	牛田享宏	慢性疼痛ケースカンファランス	メジカルビュー社	東京	2020	136-143
伊達久	交通事故後の頸部痛・腰痛のケース	牛田享宏	慢性疼痛ケースカンファランス	メジカルビュー社	東京	2020	216-233
木村嘉之, 山口重樹.	2. 特定の痛みの問題, 3) 薬物など依存と乱用	田口敏彦, 飯田宏樹, 牛田享宏	疼痛医学	医学書院	東京	2020	196-200
山口重樹, 大谷太郎, 寺島哲二	蘇生危機管理マニュアル	David. C. Borshoff	The resuscitation Crisis Manual	メディカルレビュー社	東京	2020	1-101
山口重樹	痛みとアディクションーオピオイド依存という医原性症候群	松本俊彦	アディクション・スタディーズ 薬物依存症を捉えなおす 13章	日本評論社	東京	2020	134-168
山口重樹	麻酔に用いられる麻薬性鎮痛薬と鎮静薬	山蔭道明, 廣田和美	最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科学レビュー2021	総合医学社	東京	2020	61-71
山口重樹	医師が語る オピオイドコーピングと嗜癖	下山理人	がん疼痛治療のおくすり選手名鑑: はたらきごとのチーム分けで特徴・使い分け・ケアポイントがパッとつかめる!	MCメディカ出版	東京	2021	168-172
寺島哲二, 山口重樹	帯状疱疹後神経痛	枝長充隆	麻酔科専門医合格トレーニング	中外医学社	東京	2021	

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
寺島哲二, 山口重樹	オピオイド治療中の開腹術はどうするの？	枝長充隆	麻酔科専門医合格トレーニング	中外医学社	東京	2021	
山口重樹	禁煙はオピオイド鎮痛薬の使用に関する問題に影響を及ぼすか？	一般社団法人日本ペインクリニック学会治療に関する禁煙を考えるワーキンググループ	疼痛を有する患者の禁煙に関するステートメント	真興交易遺書出版部	東京	2022	14
倉田二郎		倉田二郎	痛みのバイオマーカーとしての機能的脳画像診断法	真興交易医学書出版部	東京	2020	372
井関雅子	慢性疼痛の病因・心理社会的因子・イエローフラッグによる難治性メカニズム	松原貴子	Modern Physician	新興医学出版社	東京	2019	657-666
井関雅子 村上安壽子	線維筋痛症	牛田享宏	慢性疼痛ケースカンファレンス	メデイカルビュー社	東京	2020	354-369
井関雅子, 村上安壽子	線維筋痛症	牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬	痛みにチームでアプローチ!慢性疼痛ケースカンファレ	メジカルビュー社	東京	2020	354-369
井関雅子	慢性一次性疼痛症候群	田口敏彦, 飯田宏樹, 牛田享	疼痛医学	「疼痛医学」教科書制作研究会	山口	2020	102-108
今村佳樹	侵害受容性疼痛:2非運動器疾患	牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬	慢性疼痛ケースカンファレンス	メジカルビュー	東京	2020	15-17
今村佳樹, 岡田明子	口腔痛・顎関節症	田口敏彦, 飯田宏樹, 牛田享宏	疼痛医学	三美印刷	小野田	2020	155-163
今村佳樹, 岡田明子	口腔痛、顎関節症	田口敏彦, 飯田宏樹, 牛田享宏	疼痛医学	三美印刷	山陽小野田市	2020	155-163
小杉志都子	I 慢性痛の基礎知識:Chapter 4 慢性痛の治療 4. 侵襲的治療①:神経ブロック、インターベンション治療	牛田享宏 福井聖 川崎元敬	痛みにチームでアプローチ!慢性疼痛ケースカンファレンス	メジカルビュー社	東京	2020	65-67
北原雅樹	慢性痛診療における作業療法の未来		作業療法ジャーナル	三輪書店	東京	2020	154-158
北原雅樹	オピオイドの過量服用		臨床精神薬理	星和書店	東京	2019	277-283

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
平林万紀彦	【電気けいれん療法(ECT)の発展:現状と今後の方向性】 難治性疼痛に対する電気けいれん療法 身体症状症への効能(解説/特集)		最新精神医学(1342-4300)	世論時報社	東京	2019	203-209
北原雅樹, 繁田雅弘, 坂本昌也, 他7名	長生きできる方法 食事編、運動編、睡眠編、生活習慣編、治療法編	柿内尚史	最強の医師団が教える 長生きできる方法	アスコム	東京	2020	P42 P62 P86 P120 P192 P194 P198
木村慎二	各論21その他の重要事項1慢性疼痛(異常知覚を含む)	一般社団法人日本リハビリテーション医学教育推進機構、公益社団法人日本リハビリテーション医学会	リハビリテーション医学・医療コアテキスト 第2版	株式会社医学書院	東京	2022	332-334
Shinji Kimura	Post-surgical rehabilitation and mortality after proximal hip fracture surgery	Hideaki E. Takahashi, David B. Burr, Noriaki Yamamoto	Osteoporotic Fracture and Systemic Skeletal Disorders -Mechanism, Assessment, and Treatment-	Springer	Singapore	2021	545-549
川口善治	非特異性腰痛症	福井次矢・高木誠・小室一成	今日の治療指針 私はこう治療している	医学書院	東京都	2021	1175-7
川口善治	第IV編 2 治療 (1) 薬物療法4神経障害性疼痛治療薬	田口敏彦・飯田宏樹・牛田享宏	疼痛医学	ビーコム	東京都	2021	262-6
杉浦健之、草間宣好、太田晴子	運動器疾患に関連する神経ブロック・下肢	後藤英之	迷わず打てる関節注射・神経ブロック	羊土社	東京	2019	167~217
杉浦健之	安全な注射のための対応	後藤英之	迷わず打てる関節注射・神経ブロック	羊土社	東京	2019	17~24
杉浦健之	慢性疼痛をもたらす疾患:原因と病態 神経障害性疼痛:総論	牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬	慢性疼痛ケースカンファレンス	メジカルビュー社	東京	2020	18-21
杉浦健之, 牛田享宏	第 I 編 総論:痛みの多元性 3 慢性疼痛の分類と ICD-11	野口光一, 矢吹省司, 上園晶一, 山口重樹, 池内昌彦	疼痛医学	医学書院	東京	2020	11-17

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
杉浦健之	慢性痛の多面的評価、他	明智龍男, 杉浦健之 (著, 編集)	「こころとからだにチームでのぞむ慢性疼痛ケースブック」	医学書院	東京	2021	304
杉浦健之	「慢性疼痛の診断とICD-11分類」	一般財団法人 日本いたみ財団	いたみの教科書「疼痛医学」ダイジェスト版	医学書院	東京	2021	120
丸山一男	酸塩基平衡の考えかた 故(ふる)きを・温(たず)ねて・Stewart	丸山一男	酸塩基平衡の考えかた	南江堂	東京	2019	1-261
丸山一男	第1章 麻酔関連薬 6. 輸液製剤	丸山一男	周術期の薬の使い方 パーフェクトガイド	じほう	東京	2021	46-51
丸山淳子	第2章 術中管理に使う薬 6. 酸・塩基平衡異常	丸山一男	周術期の薬の使い方 パーフェクトガイド	じほう	東京	2021	93-99
丸山一男, 横地歩, 坂本 正	第4章 術後合併症の予防と治療 1. 術後痛・発熱	丸山一男	周術期の薬の使い方 パーフェクトガイド	じほう	東京	2021	122-131
丸山一男	第7章 周術期の患者管理 2. 漢方薬	丸山一男	周術期の薬の使い方 パーフェクトガイド	じほう	東京	2021	122-131
高村光幸	複合性局所疼痛症候群の漢方治療	世良田 和幸	疾患・症状別漢方治療 慢性疼痛	東洋学術出版社	市川	2019	81-85
Sei Fukui	ME-Guided Method, Feature of Each Technique	Kiyosige Ohseto, Jirouyuki Uchino, Hiroki Iida.	Nerve Blockade and Interventional Therapy.	Springer	Tokyo	2019	43-46
Sei Fukui	Disc Interventional Therapy, Intradiscal Therapy (X-Ray-Guided, CT-Angiography)	Kiyosige Ohseto, Jirouyuki Uchino, Hiroki Iida.	Nerve Blockade and Interventional Therapy.	Springer	Tokyo	2019	363-368
Sei Fukui	Neurodestruction and Stimulation Approach, Overview	Kiyosige Ohseto, Jirouyuki Uchino, Hiroki Iida.	Nerve Blockade and Interventional Therapy	Springer	Tokyo	2019	23-25
福井 聖	変わる日本の慢性疼痛治療 滋賀医科大学学際的痛みセンターの取り組み	世良田和幸	疾患・症状別漢方治療 慢性疼痛	東洋学術出版社	千葉	2019	21-27
福井 聖	変わる日本の慢性疼痛治療 滋賀医科大学学際的痛みセンターの取り組み	世良田和幸	疾患・症状別漢方治療 慢性疼痛	東洋学術出版社	千葉	2019	21-27

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
福井聖, 佐田 蓉子, 西脇侑 子	神経破壊技術を用 いた神経ブロック (パルス高周波法 を含む)	野口光一, 矢 吹省司, 上園 晶一, 山口重 樹, 池内昌彦 (編集協力) 福井聖	疼痛医学	株式会社 医学書院	東京	2020	341-346
久郷真人, 榎 本聖香, 安達 友紀, 福井聖	慢性頸肩腕痛に対 して集学的アプロ ーチを行ったケー ス	牛田享宏, 福 井聖, 川崎元 敬	慢性疼痛ケースカ ンファレンス	株式会社メ ジカルビュ ー社	東京	2020	234-245
福谷直人, 伊 藤かよこ		福井聖(監修)	「腰が痛い」と思 ったらとにかく読 む本	大日本印刷 株式会社	東京	2020	1-230
岩下成人, 福 井聖	Voxel-based morphometry (VBM)	倉田二郎	痛みのバイオマー カーとしての機能 的脳画像診断法	真興交易 (株) 医書 出版部	東京	2020	97-107
岩下成人, 福 井聖	慢性疼痛における 神経機能評価-MRS による知見-	倉田二郎	痛みのバイオマー カーとしての機能 的脳画像診断法	真興交易 (株) 医書 出版部	東京	2020	276-283
福井聖, 新 田一仁	慢性疼痛における 神経機能評価-VBM による知見-	倉田二郎	痛みのバイオマー カーとしての機 能的脳画像診 断法	真興交易 (株) 医書 出版部	東京	2020	284-292
福井聖, 河島 愛莉奈, 西脇 侑子	「総論: 痛みの多元 性」①神経破壊技術 を用いた神経ブロ ック	一般財団法人 日本いたみ財 団	いたみの教科書「疼 痛医学」ダイジェス ト版	医学書院	東京	2021	97-99
松田陽一	腰椎椎間板内高周 波治療	森本昌宏, 橋 爪圭司	“痛み”のX線透視 下インターベンシ ョナル治療	克誠堂出版	東京	2020	238-246
山本将揮, 鈴 木俊明, 中塚 映政	整形外科クリニッ クにおいて限られ た職種で行う集学 的アプローチ	牛田享宏, 福 井聖, 川崎元 敬	慢性疼痛ケースカ ンファレンス	メジカルビ ュー社	東京	2020	144-153
松原貴子	ペインリハビリテ ーション入門	沖田実, 松原 貴子	ペインリハビリテ ーション入門	三輪書店	東京	2019	全157頁
松原貴子	慢性痛の評価	牛田享宏, 福 井聖, 川崎元 敬	運動器慢性痛ケー スカンファレンス	メジカルビ ュー	東京	2020	26-29
松原貴子, 城 由起子, 尾張 慶子	定量的評価	田口敏彦, 飯 田宏樹, 牛田 享宏	疼痛医学	「疼痛医 学」教科書 制作研究会	山口	2020	208-215
松原貴子	痛み	木村貞治, 高 橋哲也, 内昌 之編	障害別運動療法学 の基礎と臨床実践	金原出版	東京	2020	118-155
松原貴子, 城 由起子, 尾張 慶子	定量的評価	田口敏彦, 飯 田宏樹, 牛田 享宏	疼痛医学	医学書院	東京	2020	208-215

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
松原貴子	慢性疼痛の評価. 評価項目	牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬	慢性疼痛ケースカンファレンス	メジカルビュー	東京	2020	26-29
松原貴子	理学療法	森本昌宏 他	腰痛・腰下肢痛診療のキーポイント	克誠堂	東京	2022	352-357
松原貴子	運動療法	森本昌宏 他	腰痛・腰下肢痛診療のキーポイント	克誠堂	東京	2022	358-363
松原貴子	慢性痛のリハビリテーション	明智龍男 他	慢性疼痛ケースブック	医学書院	東京	2021	61-66
松原貴子	チーム医療	上月正博 他	Crosslink basicリハビリテーションテキスト リハビリテーション医学	メジカルビュー	東京	2021	70-74
松原貴子, 城由起子, 尾張慶子	痛みの多面的評価	一般財団法人日本いたみ財団	痛みの教科書ー「疼痛医学」ダイジェスト版	医学書院	東京	2021	
小橋靖子, 西田圭一郎.	関節手術時の看護.	房間見恵, 竹内 勤 監修, 中原英子, 金子祐子	関節リウマチ看護ガイドブック	羊土社	東京都	2019	244-247
藤田慎一郎, 西田圭一郎.	関節リウマチとリハビリテーション.	房間見恵, 竹内 勤 監修, 中原英子, 金子祐子	関節リウマチ看護ガイドブック	羊土社	東京都	2019	111-119
西田圭一郎, 鉄永智紀, 尾崎敏文	関節外科技術の疼痛への応用. 第IV編 痛みの評価と治療. 2. 治療, 6. 手術療法または外科的治療	田口敏彦, 飯田宏樹, 牛田享宏	疼痛医学	医学書院	東京	2020	347-352
西田圭一郎	関節リウマチの疼痛発生機序と治療戦略. 第3章 症状・原因疾患に応じた治療戦略	池内昌彦	長引く膝の痛みに対する治療戦略	日本醫事新報社	東京	2020	88-94
西田圭一郎	変形性関節症(骨関節炎). 第13章 膠原病. リウマチ性疾患, 原発性免疫不全症	矢崎義雄	新臨床内科学 第10版	医学書院	東京	2020	1795-1797
西田圭一郎, 鉄永智紀, 尾崎敏文.	関節外科技術. 5 外科的治療.	一般財団法人日本いたみ財団	いたみの教科書「疼痛医学」ダイジェスト版	医学書院	東京	2021	99
川崎元敬	がんの痛み:乳癌の脊椎転移のケース	牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬	痛みにチームでアプローチ! 慢性疼痛ケースカンファレンス	メジカルビュー社	東京	2020	439-448

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
細井昌子	同胞葛藤による介護ストレスや過活動が持続因子となっていた線維筋痛症患者の1例	明智龍男, 杉浦健之	慢性疼痛ケースブック	医学書院	東京	2021	172-176
細井昌子	同胞葛藤による介護ストレスや過活動が持続因子となっていた線維筋痛症患者の1例	明智龍男, 杉浦健之	慢性疼痛ケースブック	医学書院	東京	2021	172-176
細井昌子, 村上匡史	IV章 関連領域と腰痛・腰下肢痛 4.身体症状としての腰痛・腰下肢痛	森本昌宏, 橋爪圭司, 山口忍	腰痛・腰下肢痛 診療のキーポイント	克誠堂出版	東京	2022	172-176
田中佑, 細井昌子	V章 腰痛・腰下肢痛の治療法 7. 心理療法	森本昌宏, 橋爪圭司, 山口忍	腰痛・腰下肢痛 診療のキーポイント	克誠堂出版	東京	2022	364-368
園畑素樹, 鶴田敏幸 ほか	第1章 手・指の骨折 05 ボクサー骨折	面川庄平	手・手指外傷の診断・保存的治療・手術	メディカ出版	大阪	2019	49-57
園畑素樹, 馬渡正明	第1章 長引く膝の痛みが発症するメカニズムと治療の現状 4. 膝痛に対する薬物療法の歴史と現状	池内昌彦	長引く膝の痛みに対する治療戦略	日本医事新報社	東京	2020	23-28
園畑素樹, 馬渡正明	巻末資料2 膝痛に使える薬剤一覧(リウマチを除き、主に変形性膝関節症に用いられる薬剤の一覧とそれぞれの特徴)	池内昌彦	長引く膝の痛みに対する治療戦略	日本医事新報社	東京	2020	211-215
園畑素樹, 平川奈緒美, 松島 淳, 馬渡正明	PartⅢ ケースカンファレンス: 集学的アプローチの実際 Chapter 4. 骨盤帯・下肢の慢性疼痛 THA 術後遷延痛のケース	牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬	痛みにチームでアプローチ! 慢性疼痛ケースカンファレンス	メジカルビュー社	東京	2020	101-111
園畑素樹, 平川奈緒美, 松島 淳, 馬渡正明	THA術後慢性痛のケース	牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬	慢性疼痛ケースカンファレンス	MEDICAL VIEW	東京	2020	301-311
園畑素樹, 馬渡正明	運動器の痛みとバイオメカニクス	田口敏彦, 飯田宏樹, 牛田享宏	疼痛医学	医学書院	東京	2020	73-78
二階堂琢也	脊椎の解剖	紺野慎一	整形外科 日常診療のエッセンス 脊椎	メジカルビュー社	東京	2019	2-14

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
二階堂琢也	腰痛	大川淳	整形外科診療のためのガイドライン活用術	中山書店	東京	2019	15-21
二階堂琢也	破裂骨折に対するMISt	西良浩一	匠が伝える低侵襲脊椎外科の奥義	MEDICAL VIEW	東京	2019	254-260
二階堂琢也	慢性腰痛、頸部痛と変形性脊椎症	田口敏彦	疼痛医学	「疼痛医学」教科書制作研究会	山口	2020	109-116

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
矢吹省司、高橋直人	慢性疼痛の概念と捉え方	整形・災害外科	62	1327-1330	2019
Kobayashi H, Sekiguchi M, Yonemoto K, Kakuma T, Tominaga R, Kato K, Watanabe K, Nikaido T, Otani K, Yabuki S, Kikuchi SI, Konno SI	Reference values of the Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire in patients with lumbar spinal stenosis and characteristics of deterioration of QOL: Lumbar Spinal Stenosis Diagnosis Support Tool: DISTO project	J Orthop Sci	24	584-589	2019
Naoto Takahashi, Kozue Takatsuki, Satoshi Ii Kasahara, Shoji Yabuki	Multidisciplinary pain management program for patients with chronic musculoskeletal pain in Japan: a cohort study	Journal of Pain Research	12	2563-2576	2019
Yabuki S, Andrew Kit Kuen Ip, Cheuk Kwam Tam, Murakami T, Usuhida T, Joon Ho Wang, et al.	Evidence-based recommendations on the pharmacological management of osteoarthritis and chronic low back pain: An Asian consensus	Asian Journal of Anesthesiology	57	37-54	2019
Yabuki S, Takatsuki K, Otani K, et al.	Headache in patients with cervical spondylotic myelopathy	J Pain Res & Management	Sep 28	8856088	2020
岩崎稔, 会田記章, 松平浩, 井関雅子, 丹羽真一, 矢吹省司 ほか	行動科学的アプローチ統合リハビリテーションツール「E-ABA」の紹介	ペインクリニック	41(9)	1181-1192	2020
二階堂琢也, 矢吹省司	脊椎・脊髄疾患治療の今 脊椎外科医から理学療法士に期待すること	PTジャーナル	54(7)	746-752	2020
本幸枝, 谷本真実, 岩崎稔, 矢吹省司 ほか	慢性疼痛に対する動機づけ面接—看護師の立場から—	ペインクリニック	41(9)	1171-1180	2020
Kato K, Sumitani M, Sekiguchi M, Nikaido T, Yabuki S, Konno S.	Development of a severity discrimination scale based on physical quality of life for patients with chronic pain	J Orthop Sci	Nov 9	S0949-2658(20)30293-1	2020
Watanabe K, Otani K, Tominaga R, Kokubun Y, Sekiguchi M, Fukuma S, Kamitani T, Yabuki S, et al.	Sagittal imbalance and symptoms of depression in adults: Locomotive Syndrome and Health Outcomes in the Aizu Cohort Study (LOHAS)	Eur Spine J	Nov 22	Doi: 10.1007/s00586-020-06660-9	2020
Kato K, et al	Development of a severity discrimination scale based on physical quality of life for patients with chronic pain	J Ortop Sci	26(6)	1124-1129	2021
Watanabe K, et al	Sagittal imbalance and symptoms of depression in adults: Locomotive Syndrome and Health Outcomes in the Aizu Cohort Study (LOHAS)	Eur Spine J	30(9)	2450-2456	2021
Kato K, et al	Abdominal oblique muscle injury at its junction with the thoracolumbar fascia in a high school baseball player presenting with unilateral low back pain	Fukushima J Medical Science	67(1)	49-52	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kazuki Kobayashi, et al	Acute cauda equina syndrome due to lumbar spinal stenosis caused by prolonged supine position during cardiac catheterization: a case report	International Journal of Case Reports (IJCR)	5	209	2021
Watanabe K, et al	Usefulness of the Brief Scale for psychiatric problems in orthopaedic patients (BS-POP) for predicting poor outcome in patients undergoing lumbar decompression surgery	Pain Research and Management	2021	2589865	2021
Kato K, et al	Ossification of the ligamentum flavum in the thoracic spine mimicking sciatica in a young baseball pitcher: a case report	Fukushima J Med Sci	67(1)	33-37	2021
矢吹省司	難治性慢性疼痛患者のリハビリテーション診療	Jpn J Rehabil Med	58(2)	186-191	2021
矢吹省司	慢性疼痛の治療戦略	Jpn J Rehabil Med	58(11)	1250-1255	2021
吉田勝浩、矢吹省司	膝関節疾患に対する運動療法—最新の知見—	整・災外	64(4)	413-417	2021
高橋勝ほか	鏡視肩板修復術後患者に対するMirror therapyの効果	福島医学雑誌	71(1)	11-18	2021
矢吹省司	新ガイドラインの意義	ペインクリニック	42(8)	937-939	2021
二瓶健司ほか	星総合病院慢性疼痛センターにおける就学的痛み治療—多職種連携における認知行動療法の意義—	慢性疼痛	40(1)	22-28	2021
本幸枝ほか	慢性疼痛治療における看護師の動機づけ面接アプローチ:面談プロセスを意識したチームでの取り組み	日本運動器疼痛学会誌	13	86-93	2021
矢吹省司	「慢性疼痛診療ガイドライン」について	ペインクリニック	43(1)	43-47	2022
Satoshi Kasahara, et al	Psychometric properties of the Multidimensional Pain Inventory: Japanese language version (MPI-J)	Pain Physician	25	E105-112	2022
Suzuki H, Aono S, Inoue S, Imajo Y, Nishida N, Funaba M, Harada H, Mori A, et al.	Clinically significant changes in pain along the Pain Intensity Numerical Rating Scale in patients with chronic low back pain	PLoS One	15(3)	e0229228	2020
Ushida T, Matsui D, Inoue T, Yokoyama M, Takatsuna H, Matsumoto T, Takita A, Kurusu T, et al.	Recent prescription status of oral analgesics in Japan in real-world clinical settings: retrospective study using a large-scale prescription database	Expert Opin Pharmacother	20(16)	2041-2052	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hayashi K, Morishima T, Ikemoto T, Miyagawa H, Okamoto T, Ushida T, Deie M	Pain Catastrophizing Is Independently Associated with Quality of Life in Patients with Severe Hip Osteoarthritis	Pain Med	20(11)	2220-2227	2019
Namba H, Kawasaki M, Izumi M, Ushida T, Takemasa R, Ikeuchi M	Effects of MRgFUS Treatment on Musculoskeletal Pain: Comparison between Bone Metastasis and Chronic Knee/Lumbar Osteoarthritis	Pain Res Manag	2019	4867904	2019
Nakajima H, Uchida K, Taguchi T, Yamashita T, Tominaga T, Tanaka M, et al.	Multicenter cross-sectional study of the clinical features and types of treatment of spinal cord-related pain syndrome	J Orthop Sci	24(5)	798-804	2019
Yabuki S, Ip AKK, Tam CK, Murakami T, Ushida T, Wang JH, Shintani HK, Sun WZ, Williams OD	Evidence-Based Recommendations on the Pharmacological Management of Osteoarthritis and Chronic Low Back Pain: An Asian Consensus	Asian J Anesthesiol	57(2)	37-54	2019
Ikemoto T, Hayashi K, Arai YC, Nishihara M, Inoue S, Inoue M, Shiro Y, Ushida T	The Relationship Between Musculoskeletal Pain and Picky Eating: The Role of Negative Self-Labeling	Pain Ther	8(1)	101-110	2019
Hayashi K, Miki K, Ikemoto T, Ushida T, Shibata M	Factors influencing outcomes among patients with whiplash-associated disorder: A population-based study in Japan	PLoS One	14(5)	e0216857	2019
Hayashi K, Aono S, Shiro Y, Ushida T	Effects of Virtual Reality-Based Exercise Imagery on Pain in Healthy Individuals	Biomed Res Int	2019	5021914	2019
Raja SN, Carr DB, Cohen M, Finnerup NB, Flor H, Gibson S, Keefe FJ, et al.	The revised International Association for the Study of Pain definition of pain: concepts, challenges, and compromises	Pain	161(9)	1976-1982	2020
Suzuki H, Aono S, Inoue S, Imajo Y, Nishida N, Funaba M, Haraada H, et al.	Clinically significant changes in pain along the Pain Intensity Numerical Rating Scale in patients with chronic low back pain	PLoS One	15(3)	e0229228	2020
Ushida T, Inoue T, Matsui D, Yokoyama M, Shiosakai K, Takeda K, et al.	Cross-sectional study of patient satisfaction with oral analgesics in patients with chronic pain in Japan	Expert Opin Pharmacother	21(8)	983-991	2020
Tanaka S, Nishigami T, Wand BM, Stanton TR, Mibu A, Tokunaga M, Yoshimoto T, Ushida T	Identifying participants with knee osteoarthritis likely to benefit from physical therapy education and exercise: A hypothesis-generating study	Eur J Pain	25(2)	485-496	2020
Freyenhagen R, Baron R, Kawaguchi Y, Malik RA, Martire DL, Parsons B, et al.	Pregabalin for neuropathic pain in primary care settings: recommendations for dosing and titration	Postgrad Med	133(1)	1-9	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Shiro Y, Nagai S, Hayashi K, Aono S, Nishihara M, Ushida T	Changes in visual attentional behavior in complex regional pain syndrome: A preliminary study	PLoS One	16(2)	e0247064	2020
寺嶋祐貴, 西原真理, 牛田享宏	【特集:脊椎由来の痛み・しびれの診かた】痛み・しびれにおける心理社会的要因の診かた	MB Orthopaedics	33(3)	64-72	2020
牛田享宏, 寺嶋祐貴, 尾張慶子ほか	慢性疼痛:集学的アセスメントとリハビリテーション治療	Rehabilitation Medicine	57(2)	154-159	2020
寺嶋祐貴, 井上真輔, 牛田享宏	特集 腰痛診療 perspective II 腰痛診療	Pharma Medica	38(1)	33-37	2020
牛田享宏	【学会を聞く】第41回日本疼痛学会を主催して	整形外科	71(2)	187-189	2020
水谷みゆき, 西原真理, 新井健一ほか	慢性疼痛治療における臨床催眠の適用症例 神経障害性疼痛	慢性疼痛	38(1)	206-211	2019
櫻井博紀, 佐藤純, 青野修一ほか	気象関連性疼痛を訴える慢性疼痛患者の特徴と運動療法	PAIN RESEARCH	34(4)	336-341	2019
寺嶋祐貴, 牛田享宏	【慢性疼痛update-実地診療に役立つ最新知見-】慢性疼痛治療ガイドライン	日本臨床	77(12)	1917-1922	2019
牛田享宏	【運動器慢性疼痛マネジメントにおけるリハビリテーション診療の意義と重要性】本邦における慢性疼痛に対する集学的治療の構築に向けて	MEDICAL REHABILITATION	242	1-8	2019
井上雅之, 井上真輔, 牛田享宏	【脊椎疾患・関節疾患による慢性疼痛治療update】慢性疼痛に対する集学的治療	整形・災害外科	62(11)	1389-1397	2019
青野比奈子, 井上雅之, 水野裕子, 野呂ひとみ, 高木涼子, 服部衣里, 中楚友一朗, 牛田享宏	【痛み診療におけるメディカルスタッフの役割-集学的診療の様々な形態-】慢性疼痛診療における多職種連携 看護師および理学療法士の役割	ペインクリニック	40(8)	104-1051	2019
櫻井博紀, 牛田享宏	【神経障害性疼痛と理学療法】神経障害性疼痛に対する運動療法	理学療法	36(6)	522-531	2019
永井修平, 尾張慶子, 牛田享宏	【神経障害性疼痛と理学療法】神経障害性疼痛の病態と最新の治療	理学療法	36(6)	484-494	2019
井上雅之, 井上真輔, 中田昌敏, 西原真理, 新井健一, 牛田享宏	【実践!ペイン・リハ-慢性疼痛治療の変革】《ペイン・リハ実践 治療編》患者教育、慢性痛教室	Modern Physician	39(6)	549-551	2019
鈴木秀典, 坂井孝司, 柴田政彦, 牛田享宏, 福井聖, 池田亮, 田口敏彦	慢性疼痛の診療に関わる医療者育成の展望 慢性の痛みに関する教育プログラムの構築 課題解決型高度医療人材養成プログラム 慢性の痛みに関する領域	Journal of Musculoskeletal Pain Research	11(3)	264-268	2019
尾張慶子, 牛田享宏	【整形外科医が知っておきたい薬の知識-私はこう使う-】病態からみた治療薬 非特異性腰痛	Orthopaedics	32(5)	1-7	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
西須大徳, 村岡渡, 牧野泉, 遠藤友樹, 臼田頌, 佐藤仁ほか	12脳神経検査により早期診断された占拠性病変による有痛性三叉神経ニューロパチー	日本口腔顔面痛学会雑誌	10(1)	31-36	2019
寺嶋祐貴, 城由起子, 青野修一, 尾張慶子ほか	各世代における慢性疼痛への影響因子の違い	PAIN RESEARCH	35(2)	107-110	2020
城由起子, 寺嶋祐貴, 青野修一, 松原貴子, 牛田享宏	慢性疼痛患者の生活機能障害および運動機能の実態とその関係性世代間比較	Pain Rehabilitation	10(1)	21-26	2020
牛田享宏, 西原真理, 尾張慶子, 永井修平, 柴田由加, 神谷妙子	末梢A β 、A δ 、C刺激によるSomatosensory Evoked Potentialの臨床応用に向けての検討	脊髄機能診断学	40(1)	33-38	2020
田中創, 西上智彦, 大石浩嗣, 西川和孝, 松田秀策, 徳永真巳, 吉本隆昌, 牛田享宏	【疼痛に対する最新の理学療法-治療効果を最大化するための理論と実践】変形性膝関節症におけるclassificationを用いた介入	理学療法ジャーナル	54(10)	1156-1164	2020
井上雅之, 西原真理, 牛田享宏	【慢性疼痛と理学療法】慢性疼痛に対する認知行動療法の臨床実践と効果検証	理学療法	37(5)	422-429	2020
櫻井博紀, 佐藤純, 大道裕介, 青野修一ほか	【さまざまな気象関連痛とその対処】気象関連痛の理学療法	ペインクリニック	41(6)	777-784	2020
中楚友一朗, 井上雅之, 宮川博文, 井上真輔, 牛田享宏	【腰痛のリハビリテーション】腰痛に対する多面的評価と介入	Journal of Clinical Rehabilitation	29(5)	455-462	2020
牛田享宏	【痛みの診断と治療最前線】慢性疼痛の分類・疫学	日本医師会雑誌	149(1)	29-32	2020
寺嶋祐貴, 牛田享宏	【整形外科疾患に対する最近の新薬】神経障害性疼痛に対する治療薬 現在および今後期待される治療薬について	関節外科	40(3)	303-307	2021
青野修一, 牛田享宏	整形外科学におけるAIの応用 慢性疼痛治療におけるAI技術の臨床応用 疼痛診療支援AIシステムの開発	日本整形外科学会雑誌	95(1)	9-15	2021
Dan J, Izumi M, Habuchi H, Habuchi O, Takaya S, Kasai Y, Hayashi R, et al.	A novel mice model of acute flares in osteoarthritis elicited by intra-articular injection of cultured mast cells.	J Exp Orthop	8(1)	75	2021
Freynhagen R, Baron R, Kawaguchi Y, Malik RA, Martire DL, Parsons B, et al.	Pregabalin for neuropathic pain in primary care settings: recommendations for dosing and titration.	Postgrad Med	133(1)	1-9	2021
Habuchi H, Izumi M, Dan J, Ushida T, Ikeuchi M, Takeuchi K, Habuchi O.	Bone marrow derived mast cells injected into the osteoarthritic knee joints of mice induced by sodium monoiodoacetate enhanced spontaneous pain through activation of PAR2 and action of extracellular ATP.	PLoS One	16(6)	e0252590	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
nagaki H, Ushida T.	the effect of playback of 22-kHz and 50-kHz ultrasonic vocalizations on rat behaviors assessed with a modified open-field test	Physiol Behav	229	113251	2021
Kawasaki M, Muramatsu S, Namba H, Izumi M, Ikeuchi M, Yaogawa S, Morio K, Ushida T.	Efficacy and safety of magnetic resonance-guided focused ultrasound treatment for refractory chronic pain of medial knee osteoarthritis. Int J Hyperthermia	Int J Hyperthermia	38(2)	46-55	2021
Okamoto T, Ikemoto T, Miyagawa H, Ishida T, Akao M, Takata T, et al.	The Cut-off Value of Physical Activity for Undergoing Total Knee Arthroplasty in Patients with Knee Osteoarthritis.	Healthcare (Basel)	9(8)	1063	2021
Shimo K, Hasegawa M, Mizutani S, Hasegawa T, Ushida T.	Effects of a 12-week workplace counseling program on physical activity and low back pain: A pilot randomized controlled study.	J Back Musculoskeletal Rehabil	34(5)	845-852	2021
Shiro Y, Nagai S, Hayashi K, Aono S, Nishihara M, Ushida T.	Changes in visual attentional behavior in complex regional pain syndrome: A preliminary study.	PLoS One	16(2)	e0247064	2021
Tanaka S, Nishigami T, Ohishi K, Nishikawa K, Wand BM, Stanton TR, Yamashita H, Mibu A, Tokunaga M, Yoshimoto T, et al.	"But it feels swollen!": the frequency and clinical characteristics of people with knee osteoarthritis who report subjective knee swelling in the absence of objective swelling.	Pain Rep	6(4)	e971	2021
Tanaka S, Nishigami T, Wand BM, Stanton TR, Mibu A, Tokunaga M, Yoshimoto T, Ushida T.	Identifying participants with knee osteoarthritis likely to benefit from physical therapy education and exercise: A hypothesis-generating study.	Eur J Pain	25(2)	485-496	2021
Yoshimoto T, Sakurai H, Ohmichi Y, Ohmichi M, Morimoto A, Ushida T, Sato J.	Changes in cardiovascular parameters in rats exposed to chronic widespread mechanical allodynia induced by hind limb cast immobilization.	PLoSOne	16(1)	e0245544	2021
井上雅之, 井上真輔, 西原真理, 新井健一, 宮川博文, 中楚友一朗, 岡本卓也, 長谷川共美, 若林淑子ほか	【腰痛に対する理学療法の進歩】慢性腰痛患者に対するペインマネジメントプログラムの有効性 自覚的改善度に影響する因子の検討. Journal of Spine Research.	Journal of Spine Research	12(6)	831-839	2021
牛田享宏, 寺嶋祐貴.	【腰痛の臨床-病態から治療まで】腰痛の治療 薬物療法・インターベンショナル治療	日本医師会雑誌	150(7)	1205-1210	2021
青野修一, 牛田享宏.	整形外科におけるAIの応用 慢性疼痛治療におけるAI技術の臨床応用 疼痛診療支援AIシステムの開発.	日本整形外科学会雑誌	95(1)	9-15	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
中楚友一朗, 下和弘, 井上雅之, 若林淑子, 牛田享宏.	【運動療法の実際】知っておきたい運動療法 痛みのマインド-ボディエクササイズ(mind-body exercise).	ペインクリニック	42(4)	461-470	2021
中楚友一朗, 牛田享宏.	【疼痛に対するリハビリテーションの最前線】疼痛に対する集学的治療.	Journal of Clinical Rehabilitation	30(12)	1226-1232	2021
田中創, 田中努, 隅田涼平, 藤田慎矢, 西上智彦, 牛田享宏.	【運動療法の実際】病態に合わせた運動療法 変形性膝関節症の運動療法.	ペインクリニック	42(4)	525-532	2021
尾張慶子, 牛田享宏.	【小児科医のためのHPVワクチンUPDATE】HPVワクチン接種後にみられた痛みの治療・患者のケア.	小児科	62(6)	581-587	2021
Ogon I et al.	Quantitative analysis concerning atrophy and fat infiltration of multifidus muscle with magnetic resonance spectroscopy in chronic low back pain	Spine Surgery Related Research	3	163-170	2019
Ogon I et al.	Analysis of neuropathic pain with magnetic resonance imaging T2 mapping of intervertebral disc in chronic low back pain	Asian Spine Journal	13	403-409	2019
Ogon I et al.	Multifidus muscles lipid content is associated with intervertebral disc degeneration -a quantitative magnetic resonance imaging study-	Asian Spine Journal	13	601-607	2019
村上 孝徳ほか	難治性腰痛	Clinical Neuroscience	37	707-709	2019
高島 弘幸ほか	腰痛の真理追求と明るい未来. MRI T2*を用いた高度変性椎間板の定量的評価と腰痛の関連性	Journal of Spine Research	10	944-947	2019
Ogon I et al.	Is the psoas major lipid content associated with chronic low back pain and spino-pelvic alignment? -A magnetic resonance spectroscopic study-	Asian Spine J	14	430-437	2020
Ogon I et al.	Relevance between Schmorl's node and lumbar intervertebral disc degeneration quantified with magnetic resonance imaging T2 mapping in chronic low back pain	Asian Spine J	14	621-628	2020
Ogon I et al.	Association between spinopelvic alignment and lumbar intervertebral disc degeneration quantified with magnetic resonance imaging T2 mapping in patients with chronic low back pain	Spine Surg Related Res	4	135-141	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ogon I et al.	Imaging diagnosis for intervertebral disc	JOR Spine	3	e1066	2020
Takashima H et al.	Lumbar disc degeneration assessment using T2* relaxation time with ultra-short TE	Magn Reson Imaging	73	11-14	2020
Kanao-Kanda M et al.	Viral Vector-Mediated Gene Transfer of Glutamic Acid Decarboxylase for Chronic Pain Treatment: A Literature Review	Human Gene Therapy	31	405-411	2020
高島弘幸, 他	慢性腰痛患者における腰痛の改善に伴う多裂筋の筋細胞内脂肪の変化	J Spine Res	11	897-901	2020
表圭一	悪心・嘔吐	ペインクリニック	41	1417-1424	2020
御村光子, 他	原発性手掌多汗症に対する胸腔鏡下交感神経遮断術の成績と患者満足度	札幌医通信 増刊号	329	175-176	2020
山下敏彦ほか	脊髄障害性疼痛と神経再生医療	日本運動器疼痛学会誌	13	7-12	2021
山下敏彦	Commonな症状が慢性化するメカニズムに迫る. 整形外科医の立場から	内科	27	1205-1209	2021
山下敏彦	アスリートの腰痛特集:腰痛の臨床一病態から治療まで	日医雑誌	150	1190	2021
山下敏彦	第28回日本腰痛学会を開催して	J Spine Res	12	792	2021
黄金勲矢ほか	多裂筋の画像診断—magnetic resonance spectroscopyによる定量的解析—	医学のあゆみ	278	38-42	2021
黄金勲矢ほか	慢性腰痛に関する定量的MRIを用いた画像的検討	J Spine Res	12	819-824	2021
御村光子ほか	原発性頭部顔面多汗症、赤面恐怖症に対する胸腔鏡下交感神経遮断術の成績と患者満足度	札幌医通信	333	165-166	2021
表圭一	ケトプロフェン	麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン	第3版	467-469	2021
Ogon I et al.	Magnetic resonance spectroscopic analysis of multifidus muscle lipid contents and association with nociceptive pain in chronic low back pain	Asian Spine J	15	441-446	2021
Ogon I et al.	多裂筋の画像診断 —magnetic resonance spectroscopyによる定量的解析—	NASSJ	5	100044	2021
Inoue G, Yamashita T, et al.	Comparison of the effectiveness of pharmacological treatments for patients with chronic low back pain: a nationwide multicenter prospective study in Japan	Spine Surg Res	15	252-263	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kanao-Kanda M et al.	Targeted fluoroscopic guided epidural blood patch using a Rac z catheter for spontaneous intracranial hypotension	J Clin Anesth	57	122-123	2019
Hashimoto K, Aizawa T, Ozawa H, Kanno H et al.	Reoperation Rates after Laminoplasty for Cervical Disorders: A 26-Year Period Survival Function Method Analysis.	Spine Surg Relat Res	3(4)	304-311	2019
Yoshii T, Hirai T, Iwanami A, Nagoshi N, Takeuchi K, Mori K, Yamada T, Seki S, Tsuchiura T, Fujiyoshi K, Furukawa M, Nishimura S, Wada K, Kodama M, Furuya T, et al.	Co-existence of ossification of the nuchal ligament is associated with severity of ossification in the whole spine in patients with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament -A multi-center CT study.	J Orthop Sci.	24(1)	35-41	2019
Eto T, Aizawa T, Kanno H, Hashimoto K, Itoi E, Ozawa H.	Several pathologies cause delayed postoperative paralysis following posterior decompression and spinal fusion for thoracic myelopathy caused by ossification of the posterior longitudinal ligament.	J Orthop Sci		doi: 10.1016/j.jos.2019.08.004.	2019
Hashimoto K, Aizawa T, Kanno H, Itoi E	Adjacent segment degeneration after fusion spinal surgery-a systematic review.	Int Orthop	43(4)	987-993	2019
Kamata K, Ozawa H, Sekiguchi Y, Aizawa T, Izumi S, Itoi E.	Spino-pelvic- lower extremity balance during walking in elderly patients with spinal kyphosis.	J Orthop Sci.	24	793-797	2019
Tonosu J, Kurosawa D, Nishi T, Ito K, Morimoto D, Musha Y, Ozawa H, Murakami E.	The association between sacroiliac joint-related pain following lumbar spine surgery and spinopelvic parameters: a prospective multicenter study.	Eur Spine J	28(7)	1603-1609	2019
小澤 浩司	交通事故の痛みと慢性化 —外傷性頸部症候群を中心に—	モダンフィジシャン	3	304-306	2019
Kanao-Kanda M et al.	Clinical application of laser speckle flowgraphy to assess changes in blood flow to the foot after a lumbar sympathetic ganglion block: A case report	J Pain Res	14	1451-1456	2021
Kanno H, Aizawa T, Hashimoto K, Itoi E, Ozawa H	Anterior decompression through a posterior approach for thoracic myelopathy caused by ossification of the posterior longitudinal ligament: A novel concept in anterior decompression and technical notes with the preliminary outcomes.	J Neurosurg Spine	24	1-11	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Aizawa T, Hashimoto K, Kanno H, Handa K, Takahashi K, Onoki T, Itoi E, Ozawa H	Retrospective comparison of the surgical results for patients with thoracic myelopathy caused by ossification of the posterior longitudinal ligament: Posterior decompression with instrumented spinal fusion versus modified anterior decompression through a posterior approach.	J Orthop Sci		Online ahead of print	2021
Kurosawa D, Murakami E, Aizawa T, Watanabe T, Yabe Y	Criteria for Identifying Technically Difficult Cases when Performing Sacroiliac Intraarticular Injections Based on the Grade of Sacroiliac Arthrogram	Pain Med	21(10)	2105-2110	2020
Kurosawa, D., Murakami, E., Koga, H., Ozawa, H.	Three-year Clinical Outcomes After Minimally Invasive Sacroiliac Joint Arthrodesis Using Triangular Implants in Japan: A Pilot Study of Five Cases.	Spine Surg Relat Res	11	71-78	2021
Hirai T, Nishimura S, Yoshii T, Nagoshi N, Hashimoto J, Mori K, Maki S, Katsumi K, Takeuchi K, Ushio S, et al.	Associations between Clinical Findings and Severity of Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis in Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament.	J Clin Med	10	4137	2021
Mori K, Yoshii T, Hirai T, Maki S, Katsumi K, Nagoshi N, Nishimura S, Takeuchi K, Ushio S, Furuya T, et al.	The characteristics of the young patients with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine: A multicenter cross-sectional study.	J Orthop Sci		S0949-2658(21)00147-0	2021
伊達久	脊椎由来の慢性疼痛に対する神経ブロックとリハビリテーションの位置づけ	ペインクリニック	40別冊	S17-S24	2019
伊達久ほか	がん性疼痛に対する高周波熱凝固法：Up to date	ペインクリニック	40別冊	S215-S224	2019
大友篤、伊達久	慢性疼痛診療の地域医療における理学療法士の役割	ペインクリニック	40 (8)	1063-1072	2019
伊達久、玉川隆生 千葉知史	運動器慢性疼痛に対するパルス高周波法と高周波熱凝固法：脊椎レベルでの活用法	日本運動器疼痛学会誌	11 (2)	99-107	2019
伊達久、山城晃 渡邊秀和	気象関連性疼痛のメカニズムと治療戦略：臨床の現場では	Pain Research	34 (9)	316-323	2019
大友篤、伊達久	地域における慢性疼痛に対する集学的治療	MB Medical Rehabilitation	242	61-67	2019
伊達久	高齢者の「痛み」をひもとく	月間ケアマネジメント	30 (3)	10-14	2019
伊達久、山城 晃、渡邊秀和	【さまざまな気象関連痛とその対処】慢性痛と天気変化	ペインクリニック	41(6)	709-718	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
伊達久	慢性疼痛症におけるペインクリニック的アプローチ	月刊難病と在宅ケア	25(6)	19-23	2019
伊達久	慢性疼痛に対するインターベンショナル治療	医学と薬学	77 (1)	31-37	2019
伊達久	慢性疼痛治療ガイドラインのポイントについて	日本薬剤師会雑誌	71 (2)	171-175	2019
伊達久	ペインコンソーシアムが行う医療者の育成	ペインクリニック	41 (2)	184-192	2020
伊達久	慢性痛の薬物療法	最新精神医学	25(2)	85-91	2020
伊達久	【疼痛治療のレシピ】慢性疼痛治療ガイドライン	臨床と研究	97(2)	138-143	2020
伊達久ほか	日常診療下における末梢性神経障害性疼痛治療剤ミロガバリンベシル酸塩錠の安全性と有効性	新薬と臨床	69 (8)	937-949	2020
伊藤裕之, 伊達久ほか	ミロガバリン処方と副作用の検討	ペインクリニック	41(10)	1361-1365	2020
伊達久	がん性疼痛に対する有床診療所における神経ブロック治療 ー地域連携を含めてー	ペインクリニック	42 (1)	32-42	2021
伊達久	がん性疼痛に対する有床診療所における神経ブロック療法 ー地域連携を含めてー	ペインクリニック	42(1)	32-42	2021
伊達久	慢性疼痛の診断と治療 ー新ガイドラインを紐解くー	ペインクリニック	42(8)	935-936	2021
伊達久	肩こり(軸性痛)に対するブロック治療	ペインクリニック	42 (別冊秋号)	S382-S390	2021
Yamanaka E, Chino S, Takasusuki T, Hamaguchi S, Yamaguchi S.	Effect of Methadone on Cardiac Repolarization in Japanese Cancer Patients: A Longitudinal Study	Cardiol Ther	10	s40119-019-00156-4	2019
Chino S, Yamanaka E, Takasusuki T, Hamaguchi S, Yamaguchi S	Comparison of Cardiac Repolarization After Transcatheter Aortic Valve Implantation and Surgical Aortic Valve Replacement: A Longitudinal Study.	Cardiol Ther	10	s40119-019-00154-6	2019
Komatsuzaki M, Takasusuki T, Kimura Y, Yamaguchi S	Assessment of the ECG T-Wave in Patients With Subarachnoid Hemorrhage.	J Neurosurg Anesthesiol	10	ANA.00000000000624	2019
Kokubu S, Eddinger KA, Yamaguchi S, Huerta-Esquivel LL, Schiller PW, Yaksh TL.	Characterization of Analgesic Actions of the Chronic Intrathecal Infusion of H-Dmt-D-Arg-Phe-Lys-NH2 in Rat.	Neuromodulation	22	781-789	2019
Kokubu S, Eddinger KA, Nguyen TM, Huerta-Esquivel LL, Yamaguchi S, Schiller PW, Yaksh TL	Characterization of the antinociceptive effects of intrathecal DALDA peptides following bolus intrathecal delivery.	Scand J Pain	19	193-206	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
山口重樹, 山中恵里子, 山田恵子	【プライマリ・ケア医のためのアディクション治療】薬物のアディクション オピオイド使用障害 北米のオピオイドクライシスから学ぶ	治療	102	334-341	2020
山口重樹, 大谷太郎, 寺島哲二, 高薄敏史, 木村嘉之, 濱口眞輔	【最近の癌治療・遺伝子治療、分子標的治療、ロボット手術などを含む】ロボット支援下前立腺全摘除術の麻酔管理 600例の経験から	Dokkyo Journal of Medical Sciences	46	209-215	2019
山口重樹, 山田恵子	【大麻-国際情勢と精神科臨床-】緩和医療における大麻	精神科治療学	35	99-105	2020
阿久津和也, 佐藤雄也, 篠崎未緒, 濱口眞輔, 山口重樹	うつ症状が増悪し精神科受診歴が明らかとなった開胸術後遷延痛の1例	慢性疼痛	38	196-198	2019
小松崎誠, 山下雄介, 福田裕也, 人見俊一, 山口重樹, 濱口眞輔	神経根ブロック後の心停止歴のある頸椎症性神経根症患者の治療経験	慢性疼痛	38	125-128	2019
木村嘉之, 山中恵里子, 寺島哲二, 藤井宏一, 山口重樹	麻酔科でもできる慢性疼痛に対する認知行動療法 認知行動療法的アプローチを行った高齢者運動器疼痛の一例	慢性疼痛	38	101-103	2019
木村嘉之, 白川賢宗, 山口重樹	がん患者に対するオピオイド鎮痛薬の利点と限界	慢性疼痛	38	38-41	2019
山口重樹	オピオイド鎮痛剤の適正使用 疑いの目を持ちつつ、患者に寄り添う気持ち	ホスピスケア	30	1-35	2019
山口重樹, 山田恵子	オピオイドクライシスへのカナダ政府の取り組み	ペインクリニック	40	1593-1602	2019
木村嘉之, 山口重樹	【慢性疼痛update-実地診療に役立つ最新知見-】オピオイド鎮痛薬の乱用・依存問題 適正使用とガイドライン	日本臨床	77	2065-2070	2019
山口重樹, 小倉奈々子, 阿久津和也, 清水貴人, 山田哲平	【がんサバイバーの痛みを考える】ケミカルコーピングと偽依存	ペインクリニック	40	S289-S298	2019
山口重樹, 小倉奈々子, 阿久津和也, 清水貴人, 山田哲平	【がんサバイバーの痛みを考える】担がん患者の慢性がん関連痛について 慢性がん疼痛と慢性がん治療後疼痛	ペインクリニック	40	S277-S287	2019
山口重樹, 山田恵子	カナダの大麻最新事情	ペインクリニック	40	1435-1443	2019
山口重樹	【徹底比較!"よく似た2剤"の使い分け】鎮痛薬 ロキソプロフェンvs.アセトアミノフェン	薬事	61	2156-2161	2019
山口重樹, Taylor Donald R	【疼痛研究の最前線と臨床への応用】痛み薬の薬物療法	臨床化学	48	225-231	2019
山口重樹	【最新主要文献とガイドラインでみる 麻酔科学レビュー 2019】麻酔に用いられる麻薬性鎮痛薬	麻酔科学レビュー	2019	67-70	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
山口重樹, 山田哲平, Taylor Donald R	【整形外科医が知っておきたい薬の知識-私はこう使う-】薬物の特性とその効果的処方 オピオイド鎮痛薬	Orthopaedics	32	138-146	2019
山口重樹, 山中恵里子, 知野 諭, Taylor Donald R.	【その患者に一番「あう」オピオイドは何か?-ヒドロモルフォンとタペンタドールの位置づけを探る】新しく導入されたオピオイドの特徴 ヒドロモルフォン	緩和ケア	29	126-130	2019
山口重樹, 山田哲平, 高橋良享, Taylor Donald R.	【ニューロパシクペイン-どのように対応しているか-】ニューロパシクペインへの取り組み 薬物療法 オピオイド鎮痛薬およびトラマドール	ペインクリニック	40	643-654	2019
山口重樹	【2019のシェヘラザードたち】(第26夜)開始はよいよい,中止は怖い 慢性疼痛のオピオイド治療 医原性疾患としてのオピオイド依存	LiSA	26	S161-S166	2019
山口重樹, 知野 諭, 山中恵里子, Taylor Donald R.	【臨床麻酔誌上セミナー'19】慢性疼痛に対するオピオイド治療	臨床麻酔	43	S317-S331	2019
山口重樹, Taylor Donald R.	がん患者におけるケミカルコーピングと偽依存 疑いの目をもちつつ、患者に寄り添う気持ち	日本病院薬剤師会雑誌	55	15-20	2019
Komatsuzaki M, Takasusuki T, Kimura Y, Yamaguchi S	Assessment of the ECG T-Wave in Patients With Subarachnoid Hemorrhage	J Neurosurg Anesthesiol	33	58-64	2021
Yamaguchi T, Ozawa H, Yamaguchi S, Yamaguchi S, Ueda S	Calbindin-Positive Neurons Co-express Functional Markers in a Location-Dependent Manner Within the All Region of the Rat Brain	Neurochem Res	46	853-865	2021
Suzuki K, Haruyama Y, Kobashi G, Sairenchi T, Uchiyama K, Yamaguchi S, Hirata K	Central Sensitization in Neurological, Psychiatric, and Pain Disorders: A Multicenter Case-Controlled Study	Pain Res Manag	2021	6656917	2021
Kimura Y, Yamaguchi S, Suzuki T, Kato J, Chiba S, Hirakawa N, Yamaguchi K, Tanabe Y, Takatsuna H, Kenyoshi Y, et al.	Switching From Pregabalin to Mirogabalin in Patients with Peripheral Neuropathic Pain: A Multi-Center, Prospective, Single-Arm, Open-Label Study (MIROP Study)	Pain Ther	10	711-727	2021
Yamaguchi S, Uchida E, Terahara T, Okawa K, Hashimoto F, Tanaka Y	Efficacy and Safety of Fentanyl Citrate Patch, Including a Low-Dose 0.5 mg Formulation, in Opioid-Naïve Patients with Cancer Pain	Clin Drug Investig	40	1041-1052	2020
Yamanaka E, Chino S, Takasusuki T, Hamaguchi S, Yamaguchi S	Effect of Methadone on Cardiac Repolarization in Japanese Cancer Patients: A Longitudinal Study	Cardiol Ther	9	119-126	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
山口重樹, 藤井宏一, 大坪俊紀	頸動脈小体とglomus細胞とは	呼吸器内科	39	158-162	2021
山口重樹, 藤井宏一, 高橋良享, 高薄敏史, 木村嘉之	【痛み治療で用いる薬物の副作用とその対策・薬物療法の反省点】薬物依存	ペインクリニック	41	1430-1440	2020
山口重樹, 高橋良享, 藤井宏一	【ヘルペスウイルス感染症2020】带状疱疹関連痛の治療	日本医師会雑誌	149	1241-1245	2020
和氣晃司, 山口重樹	【痛みの治療に必要な局所解剖】肋間神経	ペインクリニック	41	S501-S508	2020
山口重樹, 高橋良享, 藤井宏一	Medical Scope 高齢者带状疱疹の特徴とワクチン予防接種の展望	Pharma Medica	38	71-76	2020
山口重樹, 高橋良享, 藤井宏一	【「ドラッグ」の神経科学】医療用麻薬 神経障害性疼痛の治療	Clinical Neuroscience	38	984-988	2020
山口重樹, 高橋良享, 藤井宏一, 高薄敏史, 木村嘉之	米国におけるオピオイドクライシスの何が問題か?	精神科治療学	35	777-782	2020
山口重樹	最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科学レビュー 2020	麻酔に用いられる麻薬性鎮痛薬と鎮静薬. 麻酔科学レビュー	2020	67-73	2020
山口重樹, 高橋良享, 藤井宏一	がんサポーターケアのいま・これから (VOL. 24) ケミカルコーピングと偽依存の鑑別および対処法	新薬と臨床	69	878-888	2020
寺島哲二, 山口重樹	【もう一度始めるTIVA】臨床で遭遇する「どうしよう…?」や「しまった!」への対応 シミュレーションで備えあれば憂いなし	LiSA	27	738-743	2020
山中恵里子, 山口重樹	【ケースでわかる がん患者さんの説明・対応・意思決定支援 ドキッ!初めての患者説明同席おたすけガイドつき】(5章)ケースファイル 乳がんの38歳女性 子どもにはどう伝えれば?	YORI-SOUがんナーシング	10	242-247	2020
山口重樹, 高橋良享, 藤井宏一	【オピオイド鎮痛薬 適正使用に必要な看護のポイント】(Part 3)オピオイド鎮痛薬の不適切使用について	看護技術	66	803-808	2020
山口重樹	【術前・術後管理必携2020】合併症を有する患者の術前・術後管理 内分泌・代謝系 肥満	消化器外科	43	783-786	2020
山口重樹	【麻酔科医の薬物依存】オピオイドならではの恐ろしさ 開始はよいよい, 中止は怖い	LiSA	27	400-406	2020
山口重樹	【麻酔科医の薬物依存】麻酔科医ならではのアブナイ背景 麻酔科医とSTIGMA	LiSA	27	384-392	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
山口重樹, 山中恵里子, 山田恵子	【プライマリ・ケア医のためのアディクション治療】薬物のアディクション オピオイド使用障害 北米のオピオイドクライシスから学ぶ	治療	102	334-341	2020
山口重樹, 山田恵子	【大麻-国際情勢と精神科臨床-】緩和医療における大麻	精神科治療学	35	99-105	2020
Kawarai Y, Orita S, Nakamura J, Miyamoto S, Suzuki M, Inage K, Hagiwara S, Suzuki T, Nakajima T, Akazawa T, Ohtori S.	Analgesic Effect of Duloxetine on an Animal Model of Monosodium Iodoacetate-Induced Hip Osteoarthritis.	J Orthop Res	38(2)	422-430	2020
Mazaki A, Orita S, Inage K, Suzuki M, Abe K, Shiga Y, Inoue M, Norimoto M, Umimura T, Ohtori S, Yamaguchi K.	Tumor Necrosis Factor- α Produced by Osteoclasts Might Induce Intractable Pain in a Rat Spinal Metastasis Model of Breast Cancer.	Spine Surg Relat Res	5;3(3)	261-266	2019
Yamaguchi S, Terahara T, Okawa K, Inakura H.	A multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled, comparative study to evaluate the efficacy and safety of newly developed diclofenac patches in patients with cancer pain.	Pain	doi: 10.1097/j.pain.00000000000002494	doi: 10.1097/j.pain.00000000000002494	2021
Hiyama E, Yamaguchi S, Okawa K, Hashimoto F, Otaka K, Terahara T.	An Open-Label Study of the Pharmacokinetics and Tolerability of Once-a-Day Fentanyl Citrate Patch in Japanese Pediatric and Adolescent Patients with Cancer Pain.	Clin Drug Investig	41	1087-1098	2021
Kimura Y, Yamaguchi S, Suzuki T, Kato J, Chiba S, Hirakawa N, Yamaguchi K, Tanabe Y, Takatsuna H, Kenyoshi Y, et al.	Switching From Pregabalin to Mirogabalin in Patients with Peripheral Neuropathic Pain: A Multi-Center, Prospective, Single-Arm, Open-Label Study (MIROP Study).	Pain Ther	10	711-727	2021
Suzuki K, Haruyama Y, Kobashi G, Sairenchi T, Uchiyama K, Yamaguchi S, Hirata K.	Central Sensitization in Neurological, Psychiatric, and Pain Disorders: A Multicenter Case-Controlled Study.	Pain Res Manag	doi: 10.1155/2021/6656917.	doi: 10.1155/2021/6656917.	2021
Yamaguchi T, Ozawa H, Yamaguchi S, Hamaguchi S, Ueda S.	Calbindin-Positive Neurons Co-express Functional Markers in a Location-Dependent Manner Within the A11 Region of the Rat Brain.	Neurochem Res	46	853-865	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Komatsuzaki M, Takasusuki T, Kimura Y, Yamaguchi S.	Assessment of the ECGT-Wave in Patients With Subarachnoid Hemorrhage.	J Neurosurg Anesthesiol	33	58-64	2021
山口重樹, 椎名佐起子, 山中 恵里子	注目の新薬 ジクトルテープ75mg (ジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤)	診断と治療	110	111-116	2022
林 伸治, 高薄敏史, 山口重樹	日本でのオピオイドクライシスを防ぐために 製薬会社の立場から	日本ペインクリニック学会誌(28	245-252	2021
知野 諭, 清水貴仁, 山田哲平, 篠崎未緒, 山口重樹, 濱口眞輔	乳房痛を主訴にペインクリニック外来を紹介受診した46XY/47XXYモザイク型Klinefelter症候群の1例	慢性疼痛	40	263-266	2021
山口重樹, Taylor Donald R.	【今日の精神科治療ハンドブック】(第10章)物質使用症<障害>群または嗜癖行動症<障害>群 オピオイド使用症(オピオイド使用障害)	精神科治療学	36	168-169	2021
寺島哲二, 山口重樹, 木村嘉之	やっぱり, 腹部手術に対する硬膜外は“最高”の鎮痛方法である 抗血栓療法患者数の増加と腹腔鏡下手術の普及により, 硬膜外の機会は減ってはきたが…	LiSA	28	794-797	2021
山口重樹, 椎名佐起子, 山中恵里子, 白川賢宗, 藤井宏一ほか	Oncologistも知っておきたい, ワンランク上のがん疼痛診療 がん患者の訴える痛みへの対応	腫瘍内科	28	70-76	2021
山口重樹	【鎮静再考-安全な鎮静のために】安全な鎮痛とオピオイド・クライシス	日本医師会雑誌	150	672	2021
山口重樹	【最新主要文献とガイドラインでみる 麻酔科学レビュー 2021】麻酔に用いられる麻薬性鎮痛薬と鎮静薬	麻酔科学レビュー	2021	61-67	2021
山口重樹, 山中恵里子, 藤井宏一, 高橋良享, 高薄敏史, 木村嘉之	【高齢者の疼痛管理を考える】高齢者に対する痛みの薬物療法:特にオピオイド製剤使用の注意点	ペインクリニック	42	755-764	2021
山口重樹, 高橋良享, 藤井宏一	【運動器の痛み:どこから来るのか?どこへ行くのか?】(Part2)運動器の痛み どこへ行くのか? 疼痛の薬物療法 オピオイド	Bone Joint Nerve	10	601-607	2021
山田直人, 高薄敏史, 山口重樹ほか	症例カンファレンス 高用量オピオイド使用患者の人工骨頭置換術	LiSA	28	343-360	2021
山口重樹ほか	頸動脈小体とglomus細胞とは	呼吸器内科	39	158-162	2021
Inage K, Sainoh T, Fujiyoshi T, Otagiri T, Aoki Y, Inoue M, Eguchi Y, Orita S, Shiga Y, Koda M, Akazawa T, et al.	Frequency of Adverse Drug Reactions and Analgesic Effects of Mirogabalin during Treatment of Peripheral Neuropathic Pain: A Retrospective Clinical Investigation	Spine Surg Related Res	10;4(4)	354-357	2020
稲毛一秀, 折田純久ほか	高齢者の慢性疼痛の病態 腰痛	Progress in Medicine	40巻8号	823-827	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Miyagi M, Inoue G, Murata K, Koyama T, Kuroda A, Kawakubo A, Yokozeki Y, Mimura Y, Nanri Y, Inage K, Akazawa T, Ohtori S, Uchida K, Takaso M.	Factors associated with pain-related disorders and gait disturbance scores from the Japanese orthopedic association back pain evaluation questionnaire and Oswestry Disability Index in patients with osteoporosis.	Arch Osteoporos	4;17(1)	1	2021
Kanno K, Suzuki-Narita M, Kawarai Y, Hagiwara S, Yoh S, Nakamura J, et al.	Analgesic effects and arthritic changes following tramadol administration in a rat hip osteoarthritis model.	J Orthop Res	Online ahead of print	Online ahead of print	2021
Kanamoto H, Orita S, Inage K, Shiga Y, Abe K, et al.	Effect of Ultrasound-Guided Hydrorelease of the Multifidus Muscle on Acute Low Back Pain.	J Ultrasound Med	40(5)	981-987	2021
Sainoh T, Orita S, Miyagi M, Suzuki-Narita M, Sakuma Y, Oikawa Y, Kubota G, Sato J, Shiga Y, et al.	Improvements in Intractable Lumbar and Lower Extremity Symptoms after Systemic Administration of Tocilizumab, an Anti-interleukin-6 Receptor Antibody.	Asian Spine J	16(1)	99-106	2022
Enomoto K, Eguchi Y, Sato T, Norimoto M, Inoue M, Watanabe A, Sakai T, Yoneyama M, Aoki Y, et al.	Usefulness of Simultaneous Magnetic Resonance Neurography and Apparent T2 Mapping for the Diagnosis of Cervical Radiculopathy.	Asian Spine J	16(1)	47-55	2022
Shimizu K, Inage K, Orita S, Eguchi Y, Shiga Y, et al.	Background factors for chronic low back pain resistant to cognitive behavioral therapy.	Sci Rep	15;11(1)	8227	2021
Hori Y, Hoshino M, Inage K, Miyagi M, Takahashi S, et al.	Gender-specific analysis for the association between trunk muscle mass and spinal pathologies.	Sci Rep	9;11(1)	7816	2021
Norimoto M, Eguchi Y, Kanamoto H, Oikawa Y, Matsumoto K, Masuda Y, et al.	Diffusion Tensor Imaging of the Spinal Canal in Quantitative Assessment of Patients with Lumbar Spinal Canal Stenosis.	Asian Spine J	15(2)	207-215	2021
Hozumi T, Sawai S, Iitsuishi T, Kitajo K, Inage K, Eguchi Y, Shiga Y, Narita M, Orita S, et al.	Gene expression profiling of the spinal cord at the chronic pain phase identified CDKL5 as a candidate gene for neural remodeling.	Neurosci Lett	1;749	135772	2021
倉田二郎	機能的磁気共鳴画像法による慢性疼痛の脳バイオマーカーを定義する	医療機器学	90巻3号	266-71	2020
Yamamoto A, Hattamura Y, Uezono S	Spontaneous intracranial hypotension associated with cerebral venous thrombosis detected by a sudden seizure: a case report	JA Clinical Reports	6	59	2020
井関雅子、河合愛子、原厚子、濱岡早枝子、千葉聡子	慢性疼痛の概論	日本臨床	77	1884-1888	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
千葉聡子、井関雅子	ニューロパシクペインへの取り組み 神経ブロック 交感神経ブロック	ペインクリニック	40	657-666	2019
井関雅子	がんサバイバーに痛みを考える. 7 神経ブロック療法A. 神経ブロック総論	ペインクリニック	40	S413-419	2019
Koga R, Yamada K, Ishikawa R, Kubota Y, Yamaguchi K, Iseki M	Association between treatment-related early changes in psychological factors and development of postherpetic neuralgia.	J Anesth. ペインクリニック	33	636-641	2019
河合愛子, 山田恵子, 濱岡早枝子, 千葉聡子, 若泉謙太, 山口敬介, 井関雅子	慢性疼痛患者分類として質問票スコアにクラスター分析を用いた手法と, 国際疾病分類第11版 (ICD-11) に基づく分類の関連	Pain Research	35	141-153	2020
山田恵子, 壬生彰, 向後響, 井関雅子, 西上智彦	日本語版疼痛障害指標 Pain Disability Index (PDI) の開発: 言語的妥当性を担保した翻訳版の作成	Pain Research	36	11-24	2021
Kato J, Matsui N, Kakehi Y, Murayama E, Ohwada S	Long-term safety and efficacy of mirogabalin in Asian patients with postherpetic neuralgia: Results from an open-label extension of a multicenter randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	Medicine	99(36)	e21976	2020
加藤実、松井美貴	慢性痛患者に対する集学的痛みセンターを中心とした地域医療連携—医師、メディカルスタッフの役割	ペインクリニック	40	437-447	2019
上島健太郎、加藤実	痛み診療における薬剤師の役割	ペインクリニック	40	1053-1062	2019
牛山実保子, 加藤実, 坂田和佳子, 山田幸樹	集学的痛みセンターの看護師診察で判明したトラウマ体験に基づく心理特性に対する多職種対応が奏功した慢性痛の1症例	日本ペインクリニック学会誌	27	318-322	2020
Kato J, Baba M, Kuroha M, Kakehi Y, Murayama E, Wasaki Y, Ohwada S	Safety and Efficacy of Mirogabalin for Peripheral Neuropathic Pain: Pooled Analysis of Two Pivotal Phase III Studies	Clin Ther	43(5)	822-835	2021
Kato J, Inoue T, Yokoyama M, Kuroha M	A review of a new voltage-gated Ca ²⁺ channel $\alpha_2\delta$ ligand, mirogabalin, for the treatment of peripheral neuropathic pain	Expert Opin Pharmacother	25	1-12	2021
Imamura Y, Shinozaki T, Okada-Ogawa A, Nomura N, Shinoda M, Iwata K, Wada A, Abe O, Wang K, et al.	An updated review on pathophysiology and management of burning mouth syndrome with endocrinological, psychological and neuropathic perspectives	J Oral Rehabil	46	574-587	2019
今村佳樹ほか	バーニングマウス症候群	ペインクリニック	40	335-347	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Imamura Y, Okada- gawa A, Noma N, Shin ozaki T, et al.	Association of somatosensory dy sfunction with symptom duration in burning mouth syndrome	Clin Oral Invest ig	23	3471-3477	2019
今村佳樹	歯科口腔領域の慢性疼痛	日本臨床	77	1998-2003	2019
Asano S, Hayashi Y, Iwata K, Okada-Ogawa A, Hitomi S, Shibut a I, Imamura Y and S hinoda M.	Microglia-Astrocyte Communicati on via C1q Contributes to Orofa cial Neuropathic Pain Associate d with Infraorbital Nerve Injur y.	Int J Mol Sci	21	6834	2020
Nishihara C, Watanab e K, Ozasa K, Khan J, Eliav E, et al.	Altered pain modulation to Noxi ous Heat Thermal Stimuli in Bur ning Mouth Syndrome.	Oral Dis	26(8)	1777-1782	2020
Yoshimoto T, Oka H, Ishikawa S, Kokaze A, Muranaga S, Matsu daira K.	Factors associated with disabili ng low back pain among nursing personnel at a medical centre i n Japan: a comparative cross-se ctional survey.	BMJ Open	9	e03229	2019
Kohashi R, Shinozaki T, Sekine N, Watanab e K, Takanezawa D, Nishihara C, et al.	Time-dependent responses in brai n activity to ongoing hot stim ulation in burning mouth syndro me.	J Oral Sci	62(2)	170-174	2020
Imamura Y, Okada-Oga wa A, Noma N, et al.	A Perspective from Experimental Studies of Burning Mouth Syndr ome.	J Oral Sci	62(2)	165-169	2020
今村佳樹, 小笹佳奈, 西 原千紗ほか	バーニングマウス症候群とノシプ ラスティックペイン.	日口診会誌	33(2)	145-152	2020
日本口腔顔面痛学会・ 日本頭痛学会	国際口腔顔面痛分類 第1版 International Classification of Orofacial Pain 1 st edition (ICO P-1)	日本口腔顔面痛学 会雑誌	13 (1)	131-217	2021
Currie CC, Ohbach R, De Leeuw R, Forcell H, Imamura Y, Jääske läinen SK, et al.	Developing a research:Diagnosti c criteria for burningmouth syn drome_ Results from an internati onal Delphi process.	J Oral Rehabil	48	308-331	2021
Ozasa K, Noma N, You ng A, Korczeniwska O A, Eliav E, Imamura Y.	Potential differences in somato sensory function during premeno pause and early and latepostmen opause in patients with burning mouth syndrome.	J Dent Sci	17 (1)	399-406	2022
Yoshimoto T, Oka H , Fujii T, Kawamata K, Kokaze A, Koyama Y, Matsudaira K.	Survey on chronic disabling lo w back pain among care workers at nursing care facilities: a multicenter collaborative cro ss-sectional study.	J Pain Res	12	1025-1032	2019
Fujimoto Y, Fujii T, Oshima Y, Oka H, Tan aka S, Matsudaira K	The association between neck a nd shoulder discomfort-Katakori i-and high somatizing tendency	Modern rheumatol ogy	30(1)	191-196	2020
Yoshimoto T, Oka H, Fujii T, Nagata T, M atsudaira K	The Economic Burden of Lost Pr oductivity due to Presenteeism Caused by Health Conditions A mong Workers in Japan	Journal of occu pational and en vironmental med icine	62(10)	883-888	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Jinnouchi H, Matsudaira K, Kitamura A, et al.	Effects of brief self-exercise education on the management of chronic low back pain: A community-based, randomized, parallel-group pragmatic trial	Modern rheumatology	Oct 9	1-9	2020
Jinnouchi H, Ohira T, Kakihana H, Matsudaira K, et al.	Lifestyle factors associated with prevalent and exacerbated musculoskeletal pain after the Great East Japan Earthquake: a cross-sectional study from the Fukushima Health Management Survey	BMC public health	20(1)	677	2020
Kakihana H, Jinnouchi H, Kitamura A, Matsudaira K, et al.	Overweight and Hypertension in Relation to Chronic Musculoskeletal Pain Among Community-Dwelling Adults: The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS)	Journal of epidemiology	Aug 15		2020
Kasahara S, Niwa SI, Matsudaira K, et al.	Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder and Chronic Pain	Psychosomatic medicine	82(3)	346-347	2020
Nagata K, Oshima Y, Nakamoto H, Sakamoto R, Ohtomo N, Izuka M, Nakajima K, Yoshimoto T, et al.	Validity of the Japanese Core Outcome Measures Index (COMI)-Back for thoracic and lumbar spine surgery: a prospective cohort study	European spine journal	29(6)	1435-1444	2020
Oshima Y, Nagata K, Nakamoto H, Sakamoto R, Takeshita Y, Ohtomo N, et al.	Validity of the Japanese core outcome measures index (COMI)-neck for cervical spine surgery: a prospective cohort study	European spine journal	30(2)	402-409	2021
Otsuka S, Moriguchi J, Nishida N, Ohashi F, Saito N, Okuda T, Kawamata K, Matsudaira K, et al.	The effects of a two-minute original exercise program supported by the workplace unit on the workers' work engagement: the "Bipoji" exercise	Journal of physical therapy science	32(6)	410-413	2020
Tabira T, Maruta M, Matsudaira K, et al.	Relationship Between Attention Bias and Psychological Index in Individuals With Chronic Low Back Pain: A Preliminary Event-Related Potential Study.	Frontiers in human neuroscience	14	561726	2020
Tonosu J, Oka H, Watanabe K, Abe H, Higashikawa A, et al.	Characteristics of the spinopelvic parameters of patients with sacroiliac joint pain	Scientific reports	11(1)	5189	2021
Yoshimoto T, Oka H, Ochiai H, Ishikawa S, Kokaze A, Muranaga S, Matsudaira K	Presenteeism and Associated Factors Among Nursing Personnel with Low Back Pain: A Cross-Sectional Study	Journal of pain research	13	979-2986	2020
山田恵子, 松平浩	慢性疼痛の診断と治療—新ガイドラインを紐解く II.総集編 8.集学的治療	ペインクリニック	42	994-1002	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
篠原佑太ほか	複合性局所疼痛症候群 (CRPS) に対し、脊髄刺激療法 (SCS) と理学療法による複合的治療が奏功した1症例	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine	57	558-564	2020
田中智里ほか	The association of work performance and interoceptive awareness of “body trusting” in an occupational setting: a cross-sectional study.	BMJ open	In press		2020
小杉志都子	特集「高齢者の疼痛管理と緩和ケア」	日本老年医学会雑誌	56	254-59	2020
本田あやか, 星野麗子, 篠原佑太, 石川愛子, 田中智里ほか	脊椎由来疼痛の保存的治療における疼痛関連アウトカムに影響する因子の検討	日本ペインクリニック学会誌	28	183-89	2021
Tanaka C, Wakaizumi K, Kosugi S, Tanaka S, Matsudaira K, Morisaki H, Mimura M, Fujisawa D.	Association of work performance and interoceptive awareness of ‘body trusting’ in an occupational setting: a cross-sectional study.	BMJ open	11	e044303	2021
Tsuji O, Kosugi S, Suzuki S, Nori S, M, Nagoshi N, Okada E, Fujita N, et al.	Effectiveness of duloxetine for post-surgical chronic neuropathic disorders after spine and spinal cord surgery.	Asian Spine Journal	15	1-9	2021
望月英樹	自己末梢血幹細胞移植と理学療法によって復職に至ったPOEMS症候群の1症例	理学療法ジャーナル	348-352	55:	2021
北原雅樹	集学的アプローチにおける各職種への役割 in 牛田享宏ほか 慢性疼痛 ケースカンファレンス	Medical View	2020	114-118	2020
平林万紀彦	運動器疼痛から、がん性疼痛まで 難治性疼痛患者の真の回復について考える(総説)	Journal of Musculoskeletal Pain Research(2186-2796)	11(3)	233-242	2019
平林万紀彦	森田療法による回復の歩み 身体症状の真の回復を考える 痛み診療における森田療法の役割	日本森田療法学会雑誌	30(1)	47-53	2019
平林万紀彦	複合性局所疼痛症候群とリハビリテーション】精神科病院における取り組み	総合リハビリテーション	965-971	49	2021
北原雅樹	慢性疼痛治療の歴史と現状	ペインクリニック	42	S227-232	2021
栗原豊明、木村慎二	特集 脊椎疾患・関節疾患による慢性疼痛治療Update 関節疾患の慢性疼痛に対する理学療法	整形・災害外科	62(11)	1371-1379	2019
濱上陽平、木村慎二、大鶴直史、安野広三、細井昌子	特集/運動器慢性疼痛マネジメントにおけるリハビリテーション診療の意義と重要性 運動療法と認知行動療法の併用効果 -いきいきリハビリノートを用いた、認知行動療法に基づく運動促進法-	Monthly Book Medical Rehabilitation	242	45-51	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
木村慎二	心に残ったできごと-リハビリテーション科の現場から ある慢性疼痛患者の社会参加まで携わって	Journal of Clinical Rehabilitation	28巻8号	815-818	2019
木村慎二	運動器慢性疼痛マネジメントにおけるリハビリテーション診療の意義と重要性	Monthly Book Medical Rehabilitation	242巻2019年11月号	編集企画	2019
Watanabe K, Ohashi M, Hirano T, Katsumi K, Nirasawa N, Kimura S, Ohya W, Shimoda H, Hasegawa K	Significance of long corrective fusion to the ilium for physical function in patients with adult spinal deformity	Journal of Orthopaedic Science	https://doi.org/10.1016/j.jos.2020.09.016	1-6	2020
渡邊貴博, 田畑智, 五十嵐文枝, 高野真優子, 遠藤祥子, 木村慎二	急性期熱傷患者の作業療法実践過程における多職種連携の重要性～両手指切断患者の食事動作を通して～	新潟県作業療法士会学術誌	14巻	17-26	2020
居城甫, 野本規絵, 木村慎二, 張替徹, 大西康史, 眞田菜緒ほか	症例報告 長期のリハビリテーション継続で機能改善している分娩麻痺の1例	新潟医学会雑誌	133巻5号	215-219	2020
眞田菜緒, 木村慎二, 張替徹, 山崎遼ほか	脳腫瘍による左片麻痺に同側の大腿骨頸部骨折を併発した1例	新潟医学会雑誌	133巻7・8号	305-309	2020
Aida T, Shionoya A, Nonaka H, Hayami K, Uchiyama H, Nagamori M, et al.	Exploration of an inflection point of ventilation parameters with anaerobic threshold using struchange	Sensors	22(7)	https://doi.org/10.3390/s22072682	2022
田村友典、木村慎二、矢尻洋一、小黒孝夫	いきいきリハビリノートを用いて運動促進法を施行した腰椎椎間板ヘルニア術後左下肢慢性疼痛の1例	日本運動器疼痛学会誌	14	11-17	2022
Kimura S, Hosoi M, Otsuru N, Iwasaki M, Matsubara T, Mizuno Y, Nishihara M, Murakami T, Yamazaki R, Ijiro H, Anno K, Watanabe K, et al.	A novel exercise facilitation method in combination with cognitive behavioral therapy using the Ikiiki Rehabilitation Notebook for intractable chronic pain: Technical report and 22 cases	Healthcare	9(9)	https://doi.org/10.3390/healthcare9091209	2021
木村慎二	慢性疼痛に対する認知行動療法に基づく運動促進法：いきいきリハビリノートの開発から、ねらい、現在の使用状況	日本運動器疼痛学会誌	13(3)	195-202	2021
北村拓也、木村慎二	特集 運動器疼痛 5. 運動器疼痛を対象とした医療体制 5) 認知行動療法に基づく運動促進法	ペインクリニック	42(別冊春号)	S255-263	2021
栗原豊明、望月友晴、西野勝敏、木村慎二、谷藤理、川島寛之	投球リリースポイントのばらつきには踏み出し脚の膝・股関節・骨盤の運動が関係する	臨床バイオメカニクス	42	1-7	2021
菑澤紀文、木村慎二、栗原豊明、山崎遼	特集 複合性局所疼痛症候群とリハビリテーション リハビリテーション医療の役割	総合リハビリテーション	49(10)	939-943	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
細井昌子、安野広三、木村慎二	トピックス いきいきリハビリノート講習会 第3世代「いきいきリハビリノート」:心身医学的観点からの使用法	日本運動器疼痛学会誌	13(3)	203-209	2021
岩崎円、木村慎二、大鶴直史、北村拓也	トピックス いきいきリハビリノート講習会 いきいきリハビリノートを使用した診療 -理学療法士として-	日本運動器疼痛学会誌	13(3)	214-220	2021
加藤諄一、岩崎円、木村慎二	特集 疼痛に対するリハビリテーションの最前線 運動器慢性疼痛に対するリハビリテーション	Journal of Clinical Rehabilitation	30(12)	1208-1213	2021
岩崎円、木村慎二、清野健二	特集 慢性疼痛のリハビリテーション医療 Up To Date 7 運動器慢性疼痛に対する認知行動療法 -いきいきリハビリノートを用いた認知行動療法に基づく運動促進法-	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine	58(11)	1256-1263	2021
川口善治	慢性腰痛症 特集:仕事と病気	成人病と生活習慣病	47	999-1003	2017
川口善治	仕事による腰痛 慢性疼痛の治療戦略-治療法確立を目指して①	臨整外	52	790-3	2017
竹村佳記	ペンタゾシンおよびブプレノルフィン注射薬連用による偽依存から、フェンタニル貼付薬へのオピオイドスイッチングとミルタザピン内服薬併用により自宅退院に至った症例.	日本ペインクリニック学会誌	26(1)	48-52	2019
牧野紘士, 川口善治	脊椎手術後疼痛-周術期疼痛管理を中心に-	脊椎関節外科	39 (7)	781-4	2020
竹村佳記	痛みのテーラーメイド医療の実現を目指す:患者個別の“痛み関連シグナル”の多次元解析	PAINE RESEARCH	35	24-33	2020
竹村佳記	Further investigation of the rapid-onset and short-duration action of the G protein-biased mligand oliceridine	Biochem Biophys Res Commun	534	988-994	2021
川口善治	運動器疼痛の診断	ペインクリニック	別冊春号	11-20	2021
川口善治	慢性疼痛の診断と治療-新ガイドラインを紐解く	ペインクリニック	総論	940-7	2021
Hirota R, Ohya Y, Yamamoto-Hanada K, Fukutomi I Y, Muto G, Nakamura H, et al.	Triclosan-induced Alteration of Gut Microbiome and Aggravation of Asthmatic Airway Response in Aeroallergen-sensitized mice.	Allergy.	74 (5)	996-999. DOI: 10.1111/all.13639	2019
Nakamura H, Tsujiguchi H, Hara A, Nakamura H, et al.	Dietary Calcium Intake and Hypertension: Importance of Serum Concentrations of 25-Hydroxyvitamin D.	Nutrients.	23 ; 11 (4)	pii: E911. doi: 10.3390/nu11040911	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nakamura H, Tsujiguchi H, Hara A, Nakamura H, et al.	Dietary Calcium Intake and Hypertension: Importance of Serum Concentrations of 25-Hydroxyvitamin D.	Nutrients.	23;11(4)	pii: E911. doi: 10.3390/nu11040911	2019
Nakamura H, Tsujiguchi H, Kambayashi Y, Hara A, Miyagi S, Nakamura H, et al.	Relationship between Saturated Fatty Acid Intake and Hypertension and Oxidative Stress.	Nutrition.	61	8-15. doi: 10.1016/j.nut.2018.10.020	2019
Tajima H, Ohta T, Okazaki M, Yamaguchi T, Ohbatake Y, Okamoto K, Nakanuma S, Nakamura H, et al.	Neoadjuvant Chemotherapy With Gemcitabine-Based Regimens Improves the Prognosis of Node Positive Resectable Pancreatic Head Cancer.	Mol Clin Oncol	11 (2)	157-166. doi: 10.1016/j.nut.2018.10.020	2019
Noguchi-Shinohara M, Hirako K, Fujiu M, Satake M, Samuta H, Nakamura H, Yamada M	Presence of a Synergistic Interaction Between Current Cigarette Smoking and Diabetes Mellitus on Development of Dementia in Older Adults.	J Alzheimers Dis	71 (3)	833-840	2019
Sujiguchi T, Miyagi S, Thao Thi Thu Nguyen, Nakamura H, et al.	Relationship between Autistic Traits and Nutrient Intake among Japanese Children and Adolescents.	Nutrients	12(8)	2258 doi: 10.3390/nu12082258.	2020
Miyagi S, Takamura T, Nguyen TTT, Tsujiguchi H, Hara A, Nakamura H, Suzuki K, Nakamura H, et al.	Moderate alcohol consumption is associated with impaired insulin secretion and fasting glucose in non-obese non-diabetic men.	J Diabetes Investig		doi: 10.1111/jdi.13402.	2020
Nagase S, Karashima S, Tsujiguchi H, Nakamura H, et al.	Impact of Gut Microbiome on Hypertensive Patients With Low-Salt Intake: Shika Study Results.	Front Med (Lausanne)	7:475	doi: 10.3389/fmed.2020.00475.	2020
Ichikawa M, Konoshita T, Makino Y, Suzuki J, Ishizuka T, Nakamura H	An association study of C9orf3, a novel component of the renin-angiotensin system, and hypertension in diabetes.	Sci Rep	10(1)	16111 doi: 10.1038/s41598-020-73094-0.	2020
Noguchi-Shinohara M, Hirako K, Tsujiguchi H, Itatani T, Yanagihara K, Samuta H, Nakamura H, et al.	Residents living in communities with higher civic participation report higher self-rated health.	PLoS One	15(10)	e0241221 doi: 10.1371/journal.pone.0241221.	2020
Noguchi-Shinohara M, Ono K, Hamaguchi T, Nagai T, Kobayashi S, Komatsu J, Nakamura H, et al.	Safety and efficacy of Melissa officinalis extract containing rosmarinic acid in the prevention of Alzheimer's disease progression.	Sci Rep	10(1)	18627 doi: 10.1038/s41598-020-73729-2.	2020
Suzuki K, Tsujiguchi H, Miyagi S, Thao Thi Thu Nguyen, Hara A, Hiroyuki Nakamura H, et al.	Association Between Serum 25-Hydroxyvitamin D Concentrations and Chronic Pain: Effects of Drinking Habits.	J Pain Res.	13	2987-2996 doi: 10.2147/JPR.S277979.	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hara A, Tsujiguchi H, Suzuki K, Tao Y, Nakamura H, Kasahara T, Nguyen TTT, Nakamura H, et al.	Relationship between handgrip strength and albuminuria in community-dwelling elderly Japanese subjects: the Shika Study.	Biomarkers.	25(7)	587-593 doi: 10.1080/1354750X.2020.1819418.	2020
Yamashima T, Ota T, Mizukoshi E, Nakamura H, Yamamoto Y, Kikuchi M, et al.	Intake of ω -6 Polyunsaturated Fatty Acid-Rich Vegetable Oils and Risk of Lifestyle Diseases.	Adv Nutr.	11(6)	1489-1509 doi: 10.1093/advances/nmaa072.	2020
Isobe Y, Asakura H, Tsujiguchi H, Kannon T, Takayama H, Nakamura H, et al.	Alcohol Intake Is Associated With Elevated Serum Levels of Selenium and Selenoprotein P in Humans.	Front Nutr.	8	633703 doi: 10.3389/fnut.2021.633703.	2021
Suzuki F, Okamoto S, Miyagi S, Tsujiguchi H, Hara A, Nguyen TTT, Shimizu Y, Nakamura H, et al.	Protein intake in inhabitants with regular exercise is associated with sleep quality: Results of the Shika study.	PLoS ONE	16(2)	e0247926 doi: 10.1371/journal.pone.0247926	2021
Sugimoto N, Katakura M, Matsuzaki K, Nakamura H, et al.	Ginger facilitates cell migration and heat tolerance in mouse fibroblast cells.	Mol Med Rep.	23(4)	doi: 10.3892/mmr.2021.11889.	2021
Suzuki F, Okamoto S, Miyagi S, Tsujiguchi H, Hara A, Nakamura H, et al.	Relationship between Decreased Mineral Intake Due to Oral Frailty and Bone Mineral Density: Findings from Shika Study.	Nutrients	13(4)	doi: 10.3390/nu13041193.	2021
Hayashi K, Tsujiguchi H, Hori D, Yamada Y, Shimizu Y, Nakamura H, et al.	The association between overweight and prevalence of food allergy in Japanese children: a cross-sectional study.	Environ Health Prev Med.	26(1)	doi: 10.1186/s12199-021-00960-2.	2021
Miyagi S, Takamura T, Nguyen TTT, Tsujiguchi H, Hara A, Nakamura H, Suzuki K, Nakamura H, et al.	Moderate alcohol consumption is associated with impaired insulin secretion and fasting glucose in non-obese non-diabetic men.	J Diabetes Investig.	12(5)	869-876. doi: 10.1111/jdi.13402.	2021
Oshima M, Toyama T, Hara A, Shimizu M, Kitajima S, Iwata Y, Sakai N, Furuichi K, Nakamura H, et al.	Combined changes in albuminuria and kidney function and subsequent risk for kidney failure in type 2 diabetes.	BMJ Open Diabetes Res Care.	9(1)	e002311. doi: 10.1136/bmjdr-2021-002311.	2021
Shiro Y, Nagai S, Hayashi K, Aono S, Nishihara M, Ushida T	Changes in visual attentional behavior in complex regional pain syndrome: A preliminary study	PLoS One	23 ; 16(2)	e0247064	2021
Tsuboi H, Takakura Y, Tsujiguchi H, Miyagi S, Suzuki K, Nakamura, et al.	Validation of the Japanese Version of the Center for Epidemiologic Studies Depression Scale-Revised: A Preliminary Analysis.	Behavioral Sciences.	11(8)	107. https://doi.org/10.3390/bs11080107	2021
Yamada Y, Nakamura H, Tsujiguchi H, Hara A, Miyagi S, Kannon T, Sato T, Hosomi K, Nguyen TTT, Nakamura H, et al.	Relationships among the β 3-adrenergic receptor gene Trp64Arg polymorphism, hypertension, and insulin resistance in a Japanese population.	PLOS ONE	16(8)	e0255444-e02554440. doi: 10.1371/journal.pone.0255444.	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yayoi Inomata, Masato Takeda, Nguyen Thao, Mizuo Kajino, Takafumi Seto, Hiroyuki Nakamura, Kazuichi Hayakawa:	Particulate PAH Transport Associated with Adult Chronic Cough Occurrence Closely Connected with Meteorological Conditions: A Modelling Study.	Atmosphere	12(9)	1163, https://doi.org/10.3390/atmos12091163 .	2021
Nomura A, Sato T, Tada H, Kannon T, Hosomichi K, Tsujiguchi H, Nakamura H, et al.	Polygenic risk scores for low-density lipoprotein cholesterol and familial hypercholesterolemia.	Journal of human genetics	66(11)	1079-1087. doi: 10.1038/s10038-021-00929-7.	2021
太田晴子、杉浦健之、酒井美枝、近藤真前	慢性疼痛における心理社会的要因の検討～社会資源の活用に向けて	慢性疼痛	38(1)	84-89	2019
杉浦健之、酒井美枝、近藤真前、小川成、水谷潤、祖父江和哉、明智龍男	慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成と診療体制構築	日本運動器疼痛学会誌	11(3)	257-263	2019
杉浦健之、太田晴子、酒井美枝、近藤真前	下肢のしびれと痛みに対して脊髄刺激穿刺トライアルを行なったニューロパチーの一症例	慢性疼痛	39(1)	12-16	2020
杉浦健之、太田晴子、加藤利奈、徐民恵、草間宣好	さまざまな気象関連痛とその対処神経ブロック対象疾患	ペインクリニック	41(6)	751-758	2020
杉浦健之、太田晴子、藤澤瞳、酒井美枝、近藤真前	身体症状症の病態と治療—気質因がはっきりしない身体症状をとどう扱うか?身体症状症の連携・集学的治療 慢性痛診療の場合	精神医学	62(12)	1641-1649	2020
Hayashi K, Aono S, Shiro Y, Ushida T.	Effects of Virtual Reality-Based Exercise Imagery on Pain in Healthy Individuals	Biomed Res Int.	17; 2019:5021914.		2019
櫻井博紀、佐藤純、青野修一、新井健一、井上真輔、西原真理、畠山登、尾張慶子、西須大徳、牧野泉、牛田享宏	気象関連性疼痛を訴える慢性疼痛患者の特徴と運動療法(総説)	PAIN RESEARCH	34巻4号	Page336-341	2019
Suzuki H, Aono S, Inoue S, Imajo Y, Nishida N, Funaba M, Harada H, Mori A, Matsu moto M, et al.	Clinically significant changes in pain along the Pain Intensity Numerical Rating Scale in patients with chronic low back pain	PLoS One	3 ; 1 5 (3):e0229228.		2020
Hayashi K, Aono S, Fujiwara M, Shiro Y, Ushida T.	Difference in eye movements during gait analysis between professionals and trainees.	PLoS One.	3 0 ; 1 5 (4):e0232246.		2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Arai YC, Nobuhara R, Aono S, Owari K, Sarane S, Iisu H, Ito A, Sakakima Y, et al.	Clipping Hind Paws Under Isoflurane Sedation as a Useful Tool for Evaluation of Chronic Pain in CCI Animals.	Anesth Pain Med.	7 ; 1 0 (2) : e97758.		2020
青野修一	慢性痛問診管理アプリ mobile maica の開発	クリニシアン	66巻8-9号	pp. 792-797	2019
青野修一	問診データ・アンケート調査の統合とAI	医療機器学	89巻6号	pp. 511-517	2019
寺嶋祐貴, 城由起子, 青野修一, 尾張慶子, 新井健一, 井上真輔, 松原貴子, 西原真理, 牛田享宏	各世代における慢性疼痛への影響因子の違い	PAIN RESEARCH	35巻2号	107-110	2020
城由起子, 寺嶋祐貴, 青野修一, 松原貴子, 牛田享宏	慢性疼痛患者の生活機能障害および運動機能の実態とその関係性 - 世代間比較 -	PAIN REHABILITATION	10(1)	21-26	2020
櫻井博紀, 佐藤純, 大道裕介, 青野修一, 牛田享宏	気象関連痛の理学療法.	ペインクリニック	41(6)	777-784	2020
青野修一	AIと痛みへのマネジメント	関節外科	39(12)	43-49	2020
Shiro Y, Nagai S, Hayashi K, Aono S, Nishihara M, Ushida T.	Changes in visual attentional behavior in complex regional pain syndrome: A preliminary study.	PLoS One	16(2) : e0247064.		2021
青野修一, 牛田享宏	整形外科におけるAIの応用 慢性疼痛治療におけるAI技術の臨床応用 疼痛診療支援AIシステムの開発	日本整形外科学会雑誌	95(1)	9-15	2021
青野修一, 牛田享宏	慢性疼痛におけるAI技術の現状と臨床応用	整形・災害外科	64巻11号	pp. 1393-1399	2021
青野修一, 牛田享宏	AI による臨床支援: AI による疼痛診療	Bone Joint Nerve	11 巻 2号	289-295	2021
鈴木秀典, 青野修一, 今城靖明, 西田周泰, 船場真裕, 井上真輔, 田原周, 田口敏彦, 牛田享宏, 坂井孝司	慢性腰下肢痛治療における Numerical Rating Scale (NRS) と Minimally Clinically Important Difference (MCID) について	日本運動器疼痛学会誌	13	232-236	2021
青野修一, 牛田享宏	神経ブロック/インターベンションのEBMと臨床EBMの構築: レジストリ研究に対する提言	ペインクリニック	別冊秋号	S528-S533	2021
丸山一男, 横地歩, 坂本正, 牛田健太	痛みとは— 概論	Nursing Care	第2巻2号	195-202	2019
上條史絵, 丸山一男, 大井一弥, 鎮西康雄, ほか	コレクティブ・インパクト: 慢性疼痛分野での多職種連携医療者を育成する事業を普及させる仕組みとしての可能性—	日本運動器疼痛学会誌	第11巻3号	269-277	2019
中村喜美子, 辻川真弓, 上條史絵, 丸山淳子, ほか	三重大学・鈴鹿医療科学大学合同慢性疼痛医療者育成プログラム: 2018年度の取り組みについて	日本運動器疼痛学会誌	第11巻3号	278-284	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
上條史絵, 丸山一男, 丸山淳子, 浅田啓嗣ほか	学会ブース展示によるアウトリーチ活動の研究	三重大学高等教育研究	26号	47-56	2020
牛田健太, 丸山一男, 横地歩, 島岡要, 辻川真弓, 平松万由子, 船尾浩貴	「地域総活躍社会のための慢性疼痛医療者育成事業」2020年度ワークショップのオンライン開催の報告-2019年度の対面形式授業と比較して-	三重大学高等教育研究	27	57-66	2021
横地歩, 上條史絵, 丸山淳子, 丸山一男, 三上勇氣	慢性疼痛事例での「行動分析に基づく心理教育」の効果 アルプラゾラム減薬例	日本認知・行動療法学会大会発表論文集	46	122-123	2020
Ushida K, Akeda K, Momosaki R, Yokochi A, Shimada T, Ito T, Maruyama K.	Intermittent pain in patients with chronic low back pain is associated with abnormalities in muscles and fascia	Int J Rehabil Res.	45(1)	33-38	2022
丸山一男, 横地歩, 坂本正	減圧手術ではよくなるしない Failed back surgery syndrome に対する治療 Pain clinic の立場から (内服治療も含めて)	脊椎脊髄	34(8)	507-514	2022
丸山一男, 向井雄高	痛みの治療原則 ~痛みの感覚体験と感情体験を神経回路と脳から考える~	Tehamo	1(2)	30-37	2021
Adachi T, Sunohara M, Ogawa M, Enomoto K, Fujita Y, Mizuno Y, Miki K, Yukioka M, Fukui S, et al.	A Cross-Cultural Validation of the Multidimensional Pain Readiness to Change Questionnaire 2 for Japanese Individuals With Chronic Pain.	Pain Pract	Jul; 19(6)	609-620/doi: 10.1111/papr.12782. Epub 2019 Apr 3	2019
福井聖, 西脇侑子, 佐田蓉子, 河島愛莉奈	難治性慢性痛患者へのインターベンショナル治療:パルス高周波療法(pulsed radiofrequency treatment:PRF)(解説/特集)	麻酔 (0021-4892)	68巻9号	966-972	2019
西脇侑, 福井聖,	的確なフットケアをめざして~糖尿病神経障害、末梢血流障害、足の变形と痛みの基礎知識;フットケア外来でのチームでの対処法~:神経障害性疼痛と侵害受容性疼痛の薬物治療(解説/特集),	WOC Nursing	7巻5号	22-28	2019
湯浅真由美, 岩下成人, 新田一仁, 福井聖, 北川裕利	接触刺激による皮膚潰瘍のため脊髄電気刺激療法を中止したが、刺激装置留置部位を変更し治療を再開できた1症例(原著論文/症例報告)	ペインクリニック (0388-4171)	40巻8号	1085-1088	2019
安達友紀, 久郷真人, 榎本聖香, 福井聖,	痛み診療におけるメディカルスタッフの役割-集学的診療の様々な形態-:慢性痛チーム医療における心理職の役割(解説/特集)	ペインクリニック	40巻8号	1073-1081	2019
福井聖, 西脇侑子, 佐田蓉子	痛みのインターベンショナル治療update to date:高周波熱凝固法、パルス高周波法 椎間板性腰痛に対する椎間板内パルス高周波治療(解説/特集),	ペインクリニック	40巻 別冊春	S195-S204	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sluijter Menno E., Teixeira Alexandre, 三木誠, 福井聖	痛みのインターベンショナル治療u p to date: 高周波熱凝固法、パル ス高周波法 パルス高周波法の臨 床的有用性(解説/特集)	ペインクリニック	40巻 別冊春	S141-S152	2019
松本富吉, 福井聖, 北 川裕利	痛みのインターベンショナル治療u p to date】椎間板内治療、硬膜外 癒着剥離術 松本法(経S1仙骨孔 法)によるRaczカテーテル硬膜外腔 神経癒着剥離術の有用性(解説/特 集)	ペインクリニック	40巻 別冊春	S131-S140	2019
中西美保, 福井聖	慢性疼痛「総説」, 慢性疼痛—その 治療にどう多角的に向き合うか(特 集)	医学と薬学	第77巻 第1号		2020
岩下成人, 福井聖	慢性疼痛 徴候と診断, 慢性疼痛up tdate(特集)	日本臨床	第77巻 第12号		2019
中西美保, 福井聖	「慢性疼痛—その治療にどう多角 的に向き合うか」慢性疼痛 総論	医学と薬学	77(1)	7-14	2020
榎本聖香, 安達友紀, 福 井聖, 佐々木淳	「痛みの評価: 心理・社会的要因に 注目して」	臨床麻酔	44(1)	17-22	2020
辻村孝之, 中西美保, 福 井聖	「慢性難治性腰痛患者に対するCog nitive Functional Therapy (CF T) の経験 —身体機能・認知機能・生活習慣へ の理学療法」	ペインクリニッ ク	41(10)	1341-1347	2020
佐田蓉子, 松本富吉, 中西美保, 岩下成人, 福井聖, 北川裕利	「経皮的硬膜外腔神経癒着剥離術 後の左下肢運動障害で発見された 脊髄硬膜動静脈瘻の一症例」	ペインクリニッ ク	42(10)	1223-1227	2021
中西美保, 福井聖, 北 川裕利	慢性疼痛に対する漢方治療—集学的 的診療の中での位置付けと役割—	慢性疼痛	40(1)	44-48	2021
柴田政彦, 福井聖, 北 原雅樹	【運動器疼痛】運動器疼痛を対象 とした医療体制 慢性疼痛診療・ 治療の歴史と現状(解説/特集)	ペインクリニッ ク	42巻別 冊春	S227-S232	2021
岩下成人, 福井聖	【機能的脳画像法に基づく慢性疼 痛の評価】Voxel-based morphom etry(VBM)(解説/特集)	ペインクリニッ ク	42(5)	627-636	2021
松田陽一	慢性腰痛に対するインターベンシ ョナル痛み治療の役割と注意点	ペインクリニッ ク	40(4)	S10-16	2019
高橋亜矢子, 植松弘 進, 大迫正一, 博多紗 綾, 鈴木史子, 松田陽 一	超音波ガイド下耳介側頭神経ブロ ックによる三叉神経第三枝急性期 帯状疱疹関連痛の治療経験	日本ペインクリ ニク学会誌	26(1)	44-47	2019
Mibu A, Nishigami T, Uematsu H, Tanaka K, Shibata M, Matsud a Y, Fujino Y.	Validation of the Japanese ver sion of the Bath CRPS Body Per ception Disturbance Scale for CRPS.	J Anesth	35(1)	20-26	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sluijter Menno E., Teixeira Alexandre, 三木誠, 福井聖	痛みのインターベンショナル治療u p to date: 高周波熱凝固法、パル ス高周波法 パルス高周波法の臨 床的有用性(解説/特集)	ペインクリニック	40巻 別冊春	S141-S152	2019
松本富吉, 福井聖, 北 川裕利	痛みのインターベンショナル治療u p to date】椎間板内治療、硬膜外 癒着剥離術 松本法(経S1仙骨孔 法)によるRaczカテーテル硬膜外腔 神経癒着剥離術の有用性(解説/特 集)	ペインクリニック	40巻 別冊春	S131-S140	2019
中西美保, 福井聖	慢性疼痛「総説」, 慢性疼痛—その 治療にどう多角的に向き合うか(特 集)	医学と薬学	第77巻 第1号		2020
岩下成人, 福井聖	慢性疼痛 徴候と診断, 慢性疼痛up tdate(特集)	日本臨牀	第77巻 第12号		2019
中西美保, 福井聖	「慢性疼痛—その治療にどう多角 的に向き合うか」慢性疼痛 総論	医学と薬学	77(1)	7-14	2020
榎本聖香, 安達友紀, 福 井聖, 佐々木淳	「痛みの評価: 心理・社会的要因に 注目して」	臨床麻酔	44(1)	17-22	2020
辻村孝之, 中西美保, 福 井聖	「慢性難治性腰痛患者に対するCog nitive Functional Therapy (CF T) の経験 —身体機能・認知機能・生活習慣へ の理学療法」	ペインクリニック	41(10)	1341-1347	2020
佐田蓉子, 松本富吉, 中西美保, 岩下成人, 福井聖, 北川裕利	「経皮的硬膜外腔神経癒着剥離術 後の左下肢運動障害で発見された 脊髄硬膜動静脈瘻の一症例」	ペインクリニック	42(10)	1223-1227	2021
中西美保, 福井聖, 北 川裕利	慢性疼痛に対する漢方治療—集学 的診療の中での位置付けと役割—	慢性疼痛	40(1)	44-48	2021
柴田政彦, 福井聖, 北 原雅樹	【運動器疼痛】運動器疼痛を対象 とした医療体制 慢性疼痛診療・ 治療の歴史と現状(解説/特集)	ペインクリニック	42巻別 冊春	S227-S232	2021
岩下成人, 福井聖	【機能的脳画像法に基づく慢性疼 痛の評価】Voxel-based morphom etry(VBM)(解説/特集)	ペインクリニック	42(5)	627-636	2021
松田陽一	慢性腰痛に対するインターベンシ ョナル痛み治療の役割と注意点	ペインクリニック	40(4)	S10-16	2019
高橋亜矢子, 植松弘 進, 大迫正一, 博多紗 綾, 鈴木史子, 松田陽 一	超音波ガイド下耳介側頭神経プロ ックによる三叉神経第三枝急性期 帯状疱疹関連痛の治療経験	日本ペインクリ ニック学会誌	26(1)	44-47	2019
Mibu A, Nishigami T, Uematsu H, Tanaka K, Shibata M, Matsud a Y, Fujino Y.	Validation of the Japanese ver sion of the Bath CRPS Body Per ception Disturbance Scale for CRPS.	J Anesth	35(1)	20-26	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Uematsu H, Osako S, Hakata S, Kabata D, Shintani A, Kawazoe D, Mizuno K, Fujino Y, Matsuda Y.	A Double-Blind, Placebo-Controlled Study of Ultrasound-Guided Pulsed Radiofrequency Treatment of the Saphenous Nerve for Refractory Osteoarthritis-Associated Knee Pain.	Pain Physician	24(6)	E761-769	2021
井内貴子, 植松弘進, 高橋亜矢子, 博多紗綾, 鈴木史子, 松田陽一.	経椎間孔法による腹側硬膜外ブロックが診断と治療に有用であった胸椎椎間板ヘルニアによる慢性軸性疼痛の1例.	日本ペインクリニック学会誌	28(11)	209-213	2021
谷口亘, 西尾尚子, 山中学, 太地良, 筒井俊二, 中塚映政ほか	変形性膝関節症における荷重時痛とTRPV1に関するCatWalkを用いた解析	PAIN RESEARCH	34 (3)	247-253	2019
谷口亘, 中塚映政	【長引く痛みに向き合う】《それぞれの痛みはどうつきあうか》肩こりを科学する(解説/特集)	Modern Physician	39 (3)	263-265	2019
泉尚史, 谷口亘, 西尾尚子, 山中学, 中塚映政ほか	脊髄後角における興奮性シナプス伝達に対するキノホルムの作用	脊髄機能診断学	41	1-5	2020
Taiji R, Yamanaka M, Taniguchi W, Nishio N, Tsutsui S, Nakatsuka T, et al.	Anti-allodynic and promotive effect on inhibitory synaptic transmission of riluzole in rat spinal dorsal horn	Biochemistry and Biophysics Reports	28	101130	2021
山本将揮, 鈴木俊明, 中塚映政	慢性腰痛を主訴とする高齢患者の患者報告アウトカム変化の検討1ヵ月間の理学療法士の介入にて	理学療法科学	36(4)	495-498	2021
松原貴子, 下和弘, 服部貴文	定量的感覚検査	ペインクリニック	40(9)	1197-1202	2019
松原貴子	慢性疼痛に対する次世代運動療法	日本臨床	77(12)	2058-2064	2019
坂本淳哉, 城由起子, 坂野裕洋, 松原貴子	慢性疼痛治療ガイドラインを大観する. わが国の慢性疼痛リハを考える	Modern Physician	39(6)	543-545	2019
松原貴子	慢性疼痛に対するリハビリテーション	医学と薬学	77(1)	39-46	2020
松原貴子	EIHのための運動療法	ペインクリニック	41(3)	389-396	2020
Hattori T, Shimo K, Niwa Y, Tokiwa Y, Matsubara T	Association of Chronic Pain with Radiologic Severity and Central Sensitization in Hip Osteoarthritis Patients	J Pain Res	14	1153-1160	2021
Kimura S, Hosoi M, Otsuru N, Iwasaki M, Matsubara T, et al	A novel exercise facilitation method in combination with cognitive behavioral therapy using the Ikiiki Rehabilitation Notebook for intractable chronic pain: Technical report and 22 cases.	Healthcare (Basel)	9	1209	2021
服部貴文, 下和弘, 丹羽祐斗, 常盤雄地, 松原貴子	日本人変形性関節症の慢性関節痛と関節変形, 中枢感作の関係性	Pain Research	36(1)	25-33	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
服部貴文, 下和弘, 丹羽祐斗, 常盤雄地, 松原貴子	変形性関節症における神経障害性疼痛様症状の発生率と中枢感作の特性	Pain Rehabilitation 2021	11(1)	In press	2021
下和弘, 松原貴子	慢性疼痛と理学療法	理学療法	37(5)	388-395	2020
Tsuji H, Tetsunaga T, Tetsunaga T, Nishida K, Misawa H, Ozaki T.	The factors driving self-efficacy in intractable chronic pain patients: a retrospective study.	J Orthop Surg Res	14	473	2019
Kaneko Y, Kawahito Y, Kojima M, Nakayama T, Hirata S, Nishida K, et al.	Efficacy and safety of tacrolimus in patients with rheumatoid arthritis - A systematic review and meta-analysis.	Mod Rheumatol	30	1-9	2019
Takahara Y, Nishida K, Nakashima H, Ochi N, Uchida Y, Kato H, Itani S, Nakamura M, et al.	Two Cases of High Tibial Osteotomy in Patients with Rheumatoid Arthritis Treated with Biologic Disease-modifying Anti-rheumatic Drugs.	Acta Med Okayama	73	537-542	2019
Ohtsuki T, Shinaoka A, Kumagishi-Shinaoka K, Asano K, Nishida K, et al.	Mechanical strain attenuates cytokine-induced ADAMTS9 expression via transient receptor potential vanilloid type 1.	Exp Cell Res	383	111556	2019
Ito H, Tsuji S, Nakayama M, Mochida Y, Nishida K, Ishikawa H, Kojima T, Matsumoto T, et al.	Does Abatacept Increase Postoperative Adverse Events in Rheumatoid Arthritis Compared with Conventional Synthetic Disease-modifying Drugs?	J Rheumatol Actions	47(4):	502-509	2020
Horita M, Nishida K, Hashizume K, Sugimoto Y, Nasu Y, Nakahara R, et al.	Prevalence of and Risk Factors for the Progression of Upper Cervical Lesions in Patients with Rheumatoid Arthritis.	Acta Med Okayama	73	235-240	2019
Horita M, Nishida K, Hasei J, Furumatsu T, Sakurai M, Onodera Y, et al.	Involvement of ADAM12 in Chondrocyte Differentiation by Regulation of TGF-beta1-Induced IGF-1 and RUNX-2 Expressions.	Calcif Tissue Int	105	97-106	2019
西田圭一郎	整形外科からみたtreat to target—何を重視するか—	整形・災害外科	64	131-140	2020
西田圭一郎	関節リウマチ診療における見逃し・誤診. 誤診と見逃しを防ぐ	関節外科	39	132-140	2020
西田圭一郎	リウマチ整形外科手術のいま	リウマチ看護サポートマガジン RAナーシング		1-6	2020
Matsubishi M, Nishida K, Sakamoto M, Gion Y, Yoshida A, Katsuyama T, Nakahara R, Nasu Y, Matsumoto Y, Sato Y, Ozaki T.	CD30-targeted therapy induces apoptosis of inflammatory cytokine-stimulated synovial fibroblasts and ameliorates collagen antibody-induced arthritis in mice	Inflamm Res.	Feb; 71(2)	215-226	2022

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Harada R, Nishida K*, Matsuyama Y, Hashizume K, Wada T, Nasu Y, Nakahara R, Horita M, Senda M, Ozaki T.	The Japanese version of the patient-rated elbow evaluation index as a useful outcome measure that potentially reflects hand function in patients with rheumatoid arthritis who underwent total elbow arthroplasty.	Modern Rheumatology	Nov 18; 2021	roab100. doi: 10.1093/mr/roab100	2021
Ohashi H, Nishida K*, Yoshida A, Nasu Y, Nakahara R, Matsuyama Y, Takeshita A, Kaneda D, Saeki M, Ozaki T.	Adipose-derived extract suppresses IL-1 β -induced inflammatory signaling pathways in human chondrocytes and ameliorates the cartilage destruction of experimental osteoarthritis in rats.	Int. J. Mol. Sci	Sep 10; 2021	978122(18)	2021
Horita M, Nishida K*, Kaneda D, Hashizume K, Nasu Y, Nakahara R, Saiga K, Ohashi H, et al.	Subjective and Objective Outcomes of Surgery for Rheumatoid Forefoot Deformities Under the Current Treatment Paradigm.	J Foot Ankle Surg		doi.org/10.1053/j.jfas.2021.06.008.	2021
Ohashi H, Nishida K*, Nasu Y, Saiga K, Nakahara R, Horita M, Okita S, Ozaki T.	A novel radiographic measurement method for evaluation of metatarsophalangeal joint dislocation of the lesser toe in patients with rheumatoid arthritis.	Int. J. Environ. Res. Public Health	18	7520	2021
Takeshita A, Nishida K*, Yoshida A, Nasu Y, Nakahara R, Kaneda D, Ohashi H, Ozaki T.	RANKL expression in chondrocytes and its promotion by lymphotoxin- α in the course of cartilage destruction during rheumatoid arthritis.	PLoS ONE	16(7)	e0254268	2021
Okita S*, Ishikawa H, Abe A, Ito S, Nakazono K, Murasawa A, Nishida K, Ozaki T.	Risk factors of postoperative delayed wound healing in patients with rheumatoid arthritis treated with a biological agent.	Mod Rheumatol	31	587-592	2021
Okazaki Y, Furumatsu T*, Kamatsuki Y, Nishida K, Nasu Y, Nakahara R, Saito T, Ozaki T.	Differences between the root and horn cells of the human medial meniscus from the osteoarthritic knee in cellular characteristics and responses to mechanical stress.	J Orthop Sci	26	230-236	2-21
Suzuki H, Aono S, Inoue S, Imajo Y, Nishida N, Funaba M, Harada H, Mori M, Matsuyama M, et al.	Clinically significant changes in pain along the Pain Intensity Numerical Rating Scale in patients with chronic low back pain.	PloS one	15(3)	e0229228	2020
Nishida N, Jiang F, Ohgi J, Tanaka A, Suzuki H, et al.	Compression analysis of the gray and white matter of the spinal cord.	Neural regeneration research	15(7)	1344-1349	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nishida N, Izumiyama T, Asahi R, Suzuki H, et al.	Changes in the global spine alignment in the sitting position in an automobile.	The spine journal			2019
Imajo Y, Nishida N, Funaba M, Suzuki H, Sakai T	Preoperative factors that predict fair outcomes following surgery in patients with proximal cervical spondylotic amyotrophy. A retrospective study.	J Spinal Cord Med			2019
Imajo Y, Kanchiku T, Suzuki H, Nishida N, Funaba M, Taguchi T, Sakai T	Assessment of spinal cord relative vulnerability in C4-C5 compressive cervical myelopathy using multi-modal spinal cord evoked potentials and neurological findings.	J Spinal Cord Med	10	1-8	2019
Imajo Y, Kanchiku T, Suzuki H, Nishida N, Funaba M, Taguchi T	Factors associated with an excellent outcome after conservative treatment for patients with proximal cervical spondylotic amyotrophy using electrophysiological, neurological and radiological findings.	J Spinal Cord Med	19	1-9	2019
Nagao Y, Imajo Y, Funaba M, Suzuki H, Nishida N, Kanchiku T, Sakai T, Taguchi T	Relationship Between Cauda Equina Conduction Time and Type of Neurogenic Intermittent Claudication due to Lumbar Spinal Stenosis.	J Clin Neurophysiol.	Epub ahead of print		2019
Nishida N, Ohgi J, Jiang F, Ito S, Imajo Y, Suzuki H, Funaba M, et al.	Finite Element Method Analysis of Compression Fractures on Whole-Spine Models Including the Rib Cage.	Comp. Math. Methods in Medicine			2019
Suzuki H, Aono S, Inoue S, Imajo Y, Nishida N, Funaba M, Harada H, Mori A, Matsutomoto M, et al.	Clinically significant changes in pain along the Pain Intensity Numerical Rating Scale in patients with chronic low back pain.	PloS one	15(3) e0229228		2020
Nishida N, Jiang F, Ohgi J, Tanaka A, Suzuki H, et al.	Compression analysis of the gray and white matter of the spinal cord.	Neural regeneration research	15(7)	1344-1349	2020
Nishida N, Izumiyama T, Asahi R, Iwanaga H, Suzuki H, et al.	Changes in the global spine alignment in the sitting position in an automobile.	The spine journal	20(4)	614-620	2020
Imajo Y, Nishida N, Funaba M, Suzuki H, Sakai T	Preoperative factors that predict fair outcomes following surgery in patients with proximal cervical spondylotic amyotrophy. A retrospective study.	Spinal cord	58(3)	348-355	2020
Imajo Y, Kanchiku T, Suzuki H, Nishida N, Funaba M, Taguchi T	Factors associated with an excellent outcome after conservative treatment for patients with proximal cervical spondylotic amyotrophy using electrophysiological, neurological and radiological findings.	J Spinal Cord Med	43(6)	862-870	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nagao Y, Imajo Y, Funaba M, Suzuki H, Nishida N, Kanchiku T, Sakai T, Taguchi T	Relationship Between Cauda Equina Conduction Time and Type of Neurogenic Intermittent Claudication due to Lumbar Spinal Stenosis.	J Clin Neurophysiol.	37(1)	62-67	2020
Funaba M, Imajo Y, Suzuki H, Nishida N, Nagao Y, Sakamoto T, Sakai T.	The radiological characteristics associated with the development of myelopathy due to ossification of the posterior longitudinal ligaments at each responsible level based on spinal cord evoked potentials.	Clin Neurol Neurosurg.	194	105814	2020
Suzuki H, Sakai T.	Current Concepts of Stem Cell Therapy for Chronic Spinal Cord Injury	Int J Mol Sci.	22(14):7435.		2021
Seto T, Suzuki H, Okazaki T, Imajo Y, Nishida N, Funaba M, Kanchiku T, Taguchi T, Sakai T.	Three-dimensional analysis of the characteristics of joint motion and gait pattern in a rodent model following spinal nerve ligation	Biomed Eng Online	20(1):55.		2021
Suzuki H, Imajo Y, Funaba M, Nishida N, Sakamoto T, Sakai T.	Current Concepts of Neural Stem/Progenitor Cell Therapy for Chronic Spinal Cord Injury	Front Cell Neurosci.	15:794692.		2022
Kawasaki M, Muramatsu S, Namba H, Izumi M, Ikeuchi M, Yaogawa S, Morio K, Ushida T.	Efficacy and safety of magnetic resonance-guided focused ultrasound treatment for refractory chronic pain of medial knee osteoarthritis.	Int J Hyperthermia	38(2)	46-55	2021
川崎元敬, 牛田享宏.	整形外科疾患の疼痛に対する治療薬最新情報.	Journal of Clinical Rehabilitation	28	669-670	2019
川崎元敬	痛みのレッドフラッグ	Pain Rehabilitation	10	15-20	2020
Tadokoro N, Kiyasu K, Kasai Y, Kawasaki M, Takemasa R, Ikeuchi M.	Discrepancy between functional recovery and cutaneous silent period change in surgically treated degenerative cervical myelopathy: a prospective pilot study	Spinal Cord		doi: 10.1038/s41393-019-0314-0.	2019
Namba H, Kawasaki M, Izumi M, Ushida T, Takemasa R, Ikeuchi M.	Effects of MRgFUS Treatment on Musculoskeletal Pain: Comparison between Bone Metastasis and Chronic Knee/Lumbar Osteoarthritis.	Pain Res Manag		2019:4867904. doi: 10.1155/2019/4867904. eCollection 2019.	2019
川崎元敬, 伊東祥子, 喜安克仁, 曾我朋宏, 森野忠夫, 中條浩介	【慢性疼痛の診断と治療-新ガイドラインを紐解く-】総論編 インターベンショナル治療(低侵襲手術・整形外科治療)	ペインクリニック	42(8)	971-975	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
青山直樹, 川崎元敬, 葛西雄介, 喜安克仁, 武政龍一, 池内昌彦	脊髄髄膜腫に対する腫瘍切除後の硬膜処置の有用性	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	64(4)	501-502	2021
百海ひまわり, 杉峯優人, 東野恒作, 西殿圭祐, 佐々貴啓, 川崎元敬, 井上智人, 横井広道	胸髄くも膜嚢腫の1例	国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター医学雑誌	8(1)	18-21	2021
岡田豊, 東野恒作, 杉峯優人, 西殿圭祐, 佐々貴啓, 川崎元敬, 井上智人, 横井広道	従来型の腰椎術後症例に対し再手術を全内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術(full-endoscopic discectomy transforaminal approach法:FE-TF法)で施行した症例の検討	国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター医学雑誌	8(1)	14-17	2021
細井昌子, 伊津野巧, 茂貴尚子, 末松孝文, 安野広三	「こころ」の痛みと「からだ」の痛み-慢性疼痛臨床における心身相関-	臨床心理学	20(2)	150-154	2020
田中佑, 安野広三, 細井昌子	慢性疼痛に対する心理的アプローチ: Bio-psycho-social modelから	臨床と研究	97(2)	73-78	2020
細井昌子	慢性疼痛に対する心理的アプローチ-嫌悪的現象との付き合い方を習得するレッスン-	医学と薬学	77(1)	47-52	2020
富岡光直, 細井昌子, 麻生千恵, 須藤信行	自律神経訓練法を患者の病態理解に役立てる	心身医学	59(8)	742-747	2019
田中佑, 安野広三, 早木千絵, 西原智恵, 柴田舞欧, 細井昌子ほか	慢性疼痛患者への心身医学的介入の効果: 初診時における「過去の医療不信」が痛みの破局化の改善に関連する	慢性疼痛	38(1)	104-110	2019
深町享子, 一之瀬喜美子, 細井昌子ほか	看護師の交流分析に関する意識と慢性疼痛患者に対するストレス認知との関連	慢性疼痛	38(1)	134-139	2019
濱上陽平, 木村慎二, 大鶴直史, 安野広三, 細井昌子	運動療法と認知行動療法の併用効果 -いきいきリハビリノートを用いた認知行動療法に基づく運動促進法-	Medical Rehabilitation	242	45-51	2019
Shibata M, Ninomiya T, Anno K, Kawata H, Iwaki R, Sawamoto R, Kubo C, Kiyohara Y, Sudo N, Hosoi M.	Parenting style during childhood is associated with the development of chronic pain and a patient's need for psychosomatic treatment in adulthood: A case-control study.	Medicine (Baltimore)	2020 Jul 17; 99(29)	e21230/doi:10.1097/M D.00000000000021230.	2020
細井昌子	慢性疼痛とアサーション-自尊心の回復と失感情症への対応の重要性-	精神療法	46(3)	336-341	2020
細井昌子	慢性疼痛における心理社会的因子と気象関連痛: 自律神経機能低下をきたす愛着・認知・情報・行動障害の悪循環	ペインクリニック	41(6)	759-766	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
細井昌子, 安野広三	高齢者の慢性疼痛— 昭和世代の心理社会的特徴を読み解く—	Progress in Medicine (Prog. Med.)	40(8)	811-815	2020
Tomioka M, Hosoi M, Okuzawa T, Anno K, Iwaki R, Kawata H, Kubo C, Sudo N.	The effectiveness of Pictorial Representation of Illness and Self Measure (PRISM) for the assessment of the suffering and quality of interpersonal relationships of patients with chronic pain	BioPsychoSocial Medicine			2022
Fujimoto K, Hosoi M, Katsuki R, Matsushima T, Matsuo K, Nakao T, Sudo N, Kato TA.	Psychological traits of patients with depression comorbid with chronic pain: Are Complaint and Competitive tendency related to pain?	Frontiers in Psychiatry,	13	doi:10.3389/fpsy.2022.825422.	2022
Kimura S, Hosoi M, Otsuru N, Iwasaki M, Matsubara T, Mizuno Y, Nishihara M, Murakami T, Yamazaki R, Ijiro H, Anno K, Watanabe K, et al.	A novel exercise facilitation method in combination with cognitive behavioral therapy using the ikiiki rehabilitation notebook for intractable chronic pain: Technical report and 22 cases	Healthcare (Basel)	9(9)	doi: 10.3390/healthcare9091209.	2021
藤本晃嗣、細井昌子	特集:各領域における最新の心身相関について 慢性疼痛の神経炎症を中心とした生物学的基盤	心身医学	62(1)	50-56	2021
Ishikawa A, Miyake Y, Kobayashi K, Hirakawa N, et al.	Essential roles of C-type lectin Mincle in induction of neuropathic pain in mice	SCIENTIFIC REPORTS	online	doi:10.1038/s41598-018-37318-8	2019
平川奈緒美	ニューロパシックペイン—どのように対応しているか?—ニューロパシックペインへの取り組み 1) 薬物療法 ①NSAIDs・ステロイド薬	ペインクリニック	40(5)	615-623	2019
平川奈緒美	がんサバイバーの痛みを考える 7. 神経ブロック療法 B. 神経ブロック:各論 6) トリガーポイントブロック, 肋間神経ブロック, 傍脊椎神経ブロックなど	ペインクリニック	40	S466-S472	2019
平川奈緒美, 塚本絵里	特集:慢性疼痛update 実地診療に役立つ最新知見 II. 各論 三叉神経痛・非定型顔面痛(持続性特発性顔面痛)	日本臨床	77(12)	1991-1197	2019
平川奈緒美	術後疼痛コントロール	泌尿器科	11(2)	226-232	2020
上村聡子, 平川奈緒美	疼痛性疾患に対する漢方薬の有効性	日本医師会雑誌	149(1)	55	2020
Hashimoto A, Sonohata M, Mawatari M.	The Use of Oral Analgesics and Pain Self-Efficacy Are Independent Predictors of the Quality of Life of Individuals with Rheumatoid Arthritis	Pain Res Manag	2020	7409396 doi: 10.1155/2020/7409396.	2020

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hashimoto A, Sonohata M, Hirata H, Kawano S, Eto S, Ueno M, Mawatari M.	Periarticular analgesic injection containing a corticosteroid after total hip arthroplasty may prevent deep venous thrombosis: a retrospective comparative cohort study	BMC Musculoskeletal Disord	22	19/doi: 10.1186/s12891-020-03879-x.	2021
平川奈緒美, 原野りか絵, 平松史帆	1. 頸部交感神経節（星状神経節領域）（特集：痛みの治療に必要な局所解剖）	ペインクリニック	41	S355-S364	2020
Kobatake T, Miyamoto H, Hashimoto A, Ueno M, Nakashima T, Murakami T, Noda I, Sonohata M, et al.	Antibacterial Activity of Ag-Hydroxyapatite Coating Against Hematogenous Infection by Methicillin-Resistant Staphylococcus Aureus in the Rat Femur	J Orthop Res	37(12)	2655-2660	2019
Hashimoto A, Sonohata M, Kitajima M, Kawano S, Eto S, Mawatari M.	Complications of Total Hip Arthroplasty for Patients With Osteopetrosis: A Report of Four Hips in Two Patients	J Orthop Sci	online	https://doi.org/10.1016/j.jos.2019.05.019	2019
Kobayashi T, Morimoto T, Kitajima M, Sonohata M, Mawatari M.	Comments on: “The influence of spine-hip relations on total hip replacement: A systematic review” of Rivière C, Lazennec Jh Y, Van Der Straeten C, Auvinet E, Cobb J, Muirhead-Allwood S. published in Orthop Traumatol Surg Res. 2017;103(4):559-568	Orthopaedics & Traumatology Surgery & Research	online	doi:10.1016/j.otsr.2019.05.001.	2019
Sonohata M, Doi A, Yasaka T, Uta D, Mawatari M, Yoshimura M.	Noradrenaline Modulates Mechanically Evoked Responses in the Rat Spinal Dorsal Horn: An in Vivo Patch-Clamp Study	J Pain Res	12	1269-1278	2019
Hashimoto A, Sonohata M, Senba H, Mawatari M.	Spontaneous Flexor Tendon Rupture Due to Primary Distal Radioulnar Joint Osteoarthritis	Case Rep Orthop	online	doi:10.1155/2019/7604897	2019
Fukumori N, Sonohata M, Kitajima M, Kawano S, Kurata T, Sakamishi Y, Sugioka T, Mawatari M.	Reduction of Postoperative Pain by Addition of Intravenous Acetaminophen After Total Hip Arthroplasty: A Retrospective Cohort Study	Acta Med Okayama	73(1)	7-14	2019
Kawano S, Sonohata M, Eto S, Kitajima M, Mawatari M.	Bone Ongrowth of a Cementless Silver Oxide-Containing Hydroxyapatite-Coated Antibacterial Acetabular Socket	J Orthop Sci	24(4)	658-662	2019
園畑素樹、井手衆哉、馬渡正明	長引く痛みに向き合う《それぞれの痛みにどうつきあつか》 変形性膝関節症 要因と対応（解説/特集）	Modern hysician	39(3)	267-270	2019
園畑素樹、北島将、河野俊介、江頭秀一、馬渡正明	こうすれば解決！？コモンディーズ 変形性股関節症の治療指針（総説）	Journal of Musculoskeletal Pain Research	11(2)	148-156	2019

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
園畑素樹、馬渡正明	特集 脊椎疾患・関節疾患による慢性疼痛治療 update 関節疾患による慢性疾患の薬物療法(解説/特集)	整形・災害外科	62(11)	1353-1362	2019
Kimura Y, Yamaguchi S, Suzuki T, Kato J, Chiba S, Hirakawa N, Yamaguchi K, Tanabe Y, Takatsuna H, Kenyoshi Y, et al.	Switching From Pregabalin to Miriprogabalin in Patients with Peripheral Neuropathic Pain: A Multi-Center, Prospective, Single-Arm, Open-Label Study (MIRIP Study).	Pain Ther	10(1)	711-727	2021
Kobayashi T, Ureshino H, Morimoto T, Sonohata M, Mawatari M.	Pain relief differentiated according to the length of time that preoperative skin traction was carried out for hip fractures: A systematic review and meta-analysis.	Int J Orthop Trauma Nurs	43	doi: 10.1016/j.ijotn.2021.100886.	2021
Hashimoto A, Sonohata M, Kawaguchi A, Kii S, Hirata H, Mawatari M.	Comparison of the Effect of Different Local Analgesia Administration Techniques in Total Hip Arthroplasty: A Retrospective Comparative Cohort Study.	Pain Res Manag	2021	doi: 10.1155/2021/9914590.	2021
Odgerel Chimed - Ochir, Yuko Mine, and Yoshihisa Fujino	Pain, unhealthy days and poor perceived health among Japanese workers.	Journal of Occupational Health	62(1)	e12092.	2020
池内昌彦	慢性疼痛の診断と治療～新ガイドラインを紐解く～ III疾患編 2 変形性膝関節症	ペインクリニック	42	1009-1011	2021
Ohta J, Suto T, Kato D, Hiroki T, Obata H, Saito S.	Loss of endogenous analgesia leads to delayed recovery from incisional pain in a rat model of chronic neuropathic pain.	Brain Research	Nov 27	[Eupub ahead of print]	2019
小幡英章	慢性痛の薬物療法	日本医師会雑誌	149	51-54	2020
小幡英章	神経障害性疼痛の機序と治療	ペインクリニック	41(5)	621-627	2020
小幡英章	中枢性感作における抗うつ薬の鎮痛メカニズム	ペインクリニック	41(12)	1607-1614	2020
小幡英章	慢性痛の薬物療法: $\alpha 2 \delta$ リガンド・デュロキセチン	Bone Joint Nerve	10(4)	595-599	2020
Hiroki T, Suto T, Ohta J, Saito S, Obata H.	Spinal γ -aminobutyric acid interneuron plasticity is involved in the reduced analgesic effects of morphine on neuropathic pain.	J Pain	23	547-577	2022
Kato D, Suto T, Obata H, Saito S.	The efficacy of duloxetine depends on spinal cholinergic plasticity in neuropathic pain model rats.	IBRO Neurosci Rev	12	188-196	2022
小幡英章, 荻野祐一	痛みの下行性制御とプラセボ鎮痛	ペインクリニック	42	S71-S78	2021